２０２４年度

履　修　の　手　引　き

博士課程（前期課程）
博士課程（後期課程）

同志社大学大学院
社会学研究科

CONTENTS

◆ 大学院学年暦 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2ページ

◆ 路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う授業・期末試験の
実施について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4ページ

◆ 研究科の人材養成目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7ページ

◆ 博士課程（前期課程） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16ページ
- 共　通
- 修士論文提出要領
- 社会福祉学専攻
- メディア学専攻
- 教育文化学専攻
- 社 会 学 専 攻
- 産業関係学専攻

◆ 博士課程（後期課程） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34ページ
- 共　通
- 学位論文提出要領［課程博士］
- 後期課程　研究計画書／研究成果報告書、予備審査申請書（様式見本）
- 社会福祉学専攻
- メディア学専攻
- 教育文化学専攻
- 社 会 学 専 攻
- 産業関係学専攻

◆ 登録要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52ページ
（登録日程、修学上の注意、科目登録、成績、その他）

２０２４年度

大学院学年暦

同志社大学

司法研究科・ビジネス研究科以外

春学期　17週（102日）

2024年

４月１日（月）	春学期始め・春学期入学式
２日（火）	新入学生履修指導期間
３日（水）	
４日（木）	オンデマンド授業期間（DO Week）
５日（金）	
６日（土）	
７日（日）	
８日（月）	履修科目登録期間
９日（火）	
10日（水）	
11日（木）	面接授業開始
26日（金）	春学期学費納入最終日
４月29日（月）～５月５日（日）	休日
６日（月）	振替休日（授業日）
７月15日（月）	海の日（授業日）
17日（水）	面接授業最終日
18日（木）	期末試験開始
31日（水）	期末試験終了
８月１日（木）	期末試験予備日・夏期休暇開始
１日（木）～７日（水）	春学期集中講義期間
９月12日（木）	春学期学位論文総合審査日
12日（木）	夏期休暇終了
13日（金）	在学生成績通知
20日（金）	春学期終り
28日（土）	春学期学位授与式

秋学期　18週（108日）

９月21日（土）	秋学期始め・秋学期入学式
24日（火）	オンデマンド授業期間（DO Week）
25日（水）	
26日（木）	秋学期履修科目登録変更
27日（金）	
28日（土）	
29日（日）	
30日（月）	
10月１日（火）	面接授業開始
14日（月）	スポーツの日（授業日）
31日（木）	秋学期学費納入最終日
11月４日（月）	振替休日（休日）
23日（土）	勤労感謝の日（休日）
26日（火）	創立記念行事週間（休講）
27日（水）	
28日（木）	
29日（金）	創立記念日（休日）
12月24日（火）	冬期休暇開始
25日（水）	キリスト降誕日（休日）

2025年

１月５日（日）	冬期休暇終了
６日（月）	面接授業再開
13日（月）	成人の日（休日）
20日（月）	面接授業最終日
21日（火）	期末試験開始
23日（木）	創立者永眠の日
２月10日（月）	期末試験終了
12日（水）～18日（火）	秋学期集中講義期間
３月６日（木）	秋学期学位論文総合審査日
14日（金）	在学生成績通知
20日（木）	秋学期学位授与式
21日（金）	
22日（土）	
31日（月）	秋学期終り

※15週目のオンデマンド授業は各学期の成績評価を終えるまでに配信される。

２０２４年

	日	月	火	水	木	金	土
４月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	●	30				

	日	月	火	水	木	金	土
５月				1	2	●	●
	●	●	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
６月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

	日	月	火	水	木	金	土
７月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	●	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

	日	月	火	水	木	金	土
８月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	●	●	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
９月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	●	17	18	19	20	21
	●	●	24	25	26	27	28
	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土
10月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	●	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土
11月						1	2
	●	●	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	●
	24	25	26	27	28	29	30

	日	月	火	水	木	金	土
12月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

２０２５年

	日	月	火	水	木	金	土
１月				●	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	●	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

	日	月	火	水	木	金	土
２月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	●	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	●	●	25	26	27	28	

	日	月	火	水	木	金	土
３月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	●	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
授業時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:10～14:40	14:55～16:25	16:40～18:10
	Ⅵ	Ⅶ			

2024 年度からの学年暦

授業 1 週目（DO Week）と授業 15 週目のオンデマンド配信の受講方法について

2024 年度からの新学年暦では通常の教室での授業は 13 週の授業期間に受講し、残り 2 週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業 1 週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。

また、授業 15 週目のオンデマンド配信を含めて、授業 2 週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

なお、オンデマンド配信をせず、15 週対面授業の科目もありますので、各科目の受講方法は必ずシラバスを確認してください。

■2024 年度からの学年暦

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html

路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う
授業・期末試験の実施について

路線が不通の場合や暴風警報、特別警報が発表された場合には、授業および期末試験の実施について以下の措置をとります。

Ⅰ．路線が不通の場合

・「１．対象となる路線」の定める条件に合致した場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。
・開通後は、「２．開通時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。
・該当交通機関の事故等による一時的な運転見合わせの場合には、平常どおり授業・期末試験を実施しますのでご注意ください。

１．対象となる路線

次のイ、ロ、ハのいずれかひとつの条件に合致する場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。

［今出川校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．次表のａ～ｄの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間

［京田辺校地］

イ．京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
ロ．近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合
ハ．次表のａ～ｅの２以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間
e	JR	木津～京橋間

２．開通時刻と授業・期末試験開始講時

開通後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

開通時刻	開始講時
６時 30 分までに開通	１講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに開通	３講時から実施
15 時 55 分までに開通	６講時から実施
15 時 56 分時点で不通が継続中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

開通時刻	開始講時
6時30分までに開通	1講時（9時30分）から実施（平常どおり）
10時00分までに開通	2講時（13時00分）から実施
12時30分までに開通	3講時（15時30分）から実施
12時31分以後に開通	全講時実施しない

Ⅱ．暴風警報あるいは特別警報発表の場合

・「1．警報発表対象地域」に示す表の府県予報区、一次細分区域、市町村等をまとめた地域、または二次細分区域のいずれかひとつを対象に暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時から、その日の授業・期末試験の実施を中止します。

・ただし、発表された時点で、すでに実施中もしくは開始直前の授業・期末試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。

・特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。

・警報解除後、危険が回避されたことが確認された場合には、「2．警報解除時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。ただし、状況判断の上、別途指示することがあります。

1．警報発表対象地域

府県予報区	一次細分区域	市町村等をまとめた地域	二次細分区域
京都府	南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
		京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
		山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
		山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村
大阪府	大阪府	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
		東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
		大阪市	大阪市
		南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
		泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

２．警報解除時刻と授業・期末試験開始講時

警報解除後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時から実施（平常どおり）
10 時 40 分までに解除	3 講時から実施
15 時 55 分までに解除	6 講時から実施
15 時 56 分時点で警報が発表中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

警報解除時刻	開始講時
6 時 30 分までに解除	1 講時（9 時 30 分）から実施（平常どおり）
10 時 00 分までに解除	2 講時（13 時 00 分）から実施
12 時 30 分までに解除	3 講時（15 時 30 分）から実施
12 時 31 分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

Ⅲ．Ⅰ、Ⅱにかかわらず、授業・期末試験を行うことが困難もしくは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。

Ⅳ．Ⅰ．に定めた路線において計画運休の確定情報が発表された場合、不通となる路線に応じて、授業の休講、期末試験の中止などの措置をとることがあります。

Ⅴ．路線の不通や暴風警報・特別警報の発表、荒天・自然災害などにより、平常どおり授業・期末試験を行うことができない時には、大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等を利用して、大学や授業担当者から、必要に応じた連絡を行います。
大学 HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class 等をこまめに確認してください。

以上

【大学院社会学研究科の人材養成目的・ディプロマ･ポリシー・カリキュラム･ポリシー】

前期課程

社会学研究科博士課程（前期）は、激しく変動する社会事象や社会問題について、各専門分野が開拓し蓄積してきた理論的、実証的方法の伝授、修得をとおして、情報収集、解析、解釈における専門的能力をベースにした高度な研究企画や実践能力を身に付けて、専門的能力を活かした高度職業人、若しくは研究者を目指しうる人材の養成を目的とする。

後期課程

社会学研究科博士課程（後期）は、各専門の学問分野について、各専門分野が開拓し蓄積してきた理論的、実証的方法を自己の研究テーマに即して応用探求批判し、博士学位論文の作成を通じて、既存の研究水準を半歩でも前進させる研究能力を身に付けて、学問の理論的実践的飛躍に貢献できる研究者、若しくは当該専門分野での経営執行の専門家の養成を目的とする。

■ 社会福祉学専攻

前期課程

人材養成に関する目的

社会福祉学専攻博士課程（前期）は、社会福祉学の理論、思想・歴史、援助論と制度・政策論についてミクロからメゾ、マクロまでバランスよく提供することで、社会福祉の「価値・倫理観」、「知識」と「援助技術」の習得を目指し、社会福祉の諸領域において専門性の高い実践を遂行できる中核的実践家を養成するとともに、社会福祉施設や教育機関、地方自治体などの職員へのリカレント教育機会の提供による高度専門職業人の養成を目指す。

ディプロマ･ポリシー

・少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に向けて、社会福祉の制度・政策、地域福祉、対人援助それぞれの基礎的知識を習得し、現場に密接した相談援助スキルを身に付けることができる。（知識・技能）
・社会が直面する社会問題に対し、社会福祉の各領域において国際的な社会科学的知見から学術的に探究し、その解決に向けて行動し、発信できる。（思考力・判断力・表現力）
・社会福祉の基礎になっている価値・倫理観を習得し、福祉社会の健全な発展に向けて政策企画や実践を探求できる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

・少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目Ａ群～Ｅ群で構成されるカリキュラムを設置し、また、修士論文作成を課している。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。
・必修科目は「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」（2 年次通年配当、計 4 単位）であり、優れた修士論文の完成を目標にきめ細かい指導を行っていく。

・選択科目は主として以下のような内容で区別されている。
　A 群：基礎科目および科学的調査方法論の習得を目標とする科目
　B 群：社会福祉の思想・歴史
　C 群：社会福祉のマクロ、メゾおよび国際社会福祉
　D 群：社会福祉のミクロ
　E 群：社会福祉の分野及び関連領域
・必要単位数は、必修科目 4 単位、選択科目 A 群～E 群の中から 4 群を選択し、（※2011 年度以前生は、選択科目 A 群～D 群から）それぞれ 4 単位以上、さらに選択科目 A 群～E 群、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から 10 単位以上、合計 30 単位以上であり、特定専門領域に偏らず、マクロからミクロ、思想・歴史から方法論までバランスよく取るようにしている。
・大学院入学者には教員がアドバイザーとして円滑な履修と研究のスタートをサポートする。1 年次秋には指導教員（主査）および副指導教員を決定し、丁寧な指導を行っていく。
・修士論文提出（2 年次の 1 月）までに「修士論文作成発表会」を 2 回開き（5－6 月、11－12 月）、教員、院生からのアドバイスを得ることができる。

後期課程

人材養成に関する目的

社会福祉学専攻博士課程（後期）は、博士課程（前期）と同様に、社会福祉の「価値・倫理観」、「知識」と「援助技術」の習得という教育目標のもと、博士学位論文の作成を指導することにより、大学院生の高度な研究能力を育成することによって、優秀な研究者を養成することを目的とするとともに、社会福祉の諸領域において専門性の高い企画立案と実践を遂行できる経営・管理的実践家の養成を目指す。

ディプロマ･ポリシー

・少子・高齢化社会における多くの福祉課題の解決に向けて、社会福祉の制度・政策、地域福祉、対人援助それぞれの高度な専門知識を習得し、現場に密接した優れた相談援助スキルを身に付けることができる。（知識・技能）
・社会が直面する社会問題に対し、社会福祉の各領域において抜きん出た国際的な社会科学的知見から学術的に探究し、その解決に向けて行動し、発信できる。（思考力・判断力・表現力）
・社会福祉の基礎になっている価値・倫理観を習得し、福祉社会の健全な発展に向けてハイレベルな政策企画や実践を探求できる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

【2018 年度以降生】

・後期課程では、院生は指導教員の研究指導科目を登録し、博士論文の完成に向けて研究指導を受け、独創的な研究をまとめた学会報告と学術論文の作成を行う。また、授業科目の中から、各「セミナー」「社会福祉学総合演習」を含め計 10 単位以上を履修する。
・その間、博士論文予備発表会で報告し、博士学位論文提出予備審査を経て、学位論文提出条件を充足するように個別研究指導を受ける。また、副指導教員を含む他の教員からも指導を受ける。
・研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

【2017 年度以前生】

後期課程では、院生は指導教員の研究指導科目を登録し、博士論文の完成に向けて研究指導を受け、独創的な研究をまとめた学会報告と学術論文の作成を行う。その間、博士論文予備発表会で報告し、博士学位論文提出予備審査を経て、学位論文提出条件を充足するように個別研究指導を受ける。また、副指導教員を含む他の教員からも指導を受ける。研究指導科目は、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

▮ メディア学専攻

前期課程

人材養成に関する目的

メディア学専攻博士課程（前期）は、メディアとジャーナリズム、情報と社会、文化とコミュニケーションの視座から、現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの影響・機能について、理論的研究を深めるとともに、メディアの実践的スキルを修得させ、修了後は研究継続として後期課程への進学、官民の研究機関・メディア機関及び一般コミュニケーション関連企業等において活躍できる人材の育成を目的とする。

ディプロマ･ポリシー

・現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響について学術的・理論的に深く理解することができる。（知識・技能）
・社会課題に対応したメディアの問題解決のため研究と実践両面で学識を適切に応用することができる。（思考力・判断力・表現力）
・メディアの課題に対して社会的・職業的な要請に応える高い識見を自ら育成することができる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

・現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響について深く理解し、メディアの課題に対応した社会的・職業的な要請に応える識見を自ら育成、研究・実践両面において課題解決に適切な応用力を持つ人材を目標として講義科目、演習科目で構成されるカリキュラムを設置し、また、修士論文作成を課している。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。
・講義科目は、指導教員の指示により「メディアとジャーナリズム」「情報と社会」「コミュニケーションと文化」の３つの視点から現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響に関して深く理解し、課題に対応した識見を自ら育成するため 16 単位以上を修得する。
・演習科目は、専門家としてメディアの課題に対して社会的・職業的な要請に応える識見を育成、研究・実践両面において課題解決に適切な応用力を身に付けるため指導教員の指示により２単位以上を修得する。
・学際的に幅広い見地から専門家としての基礎を確立するために社会情報環境とメディア・コミュニケーションの機能・影響等メディアに関連した講義科目・演習科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から 12 単位以上を修得する。

後期課程

人材養成に関する目的

メディア学専攻博士課程（後期）は、メディアとジャーナリズム、情報と社会、文化とコミュニケーションの視座から、現代の社会情報環境とメディア・コミュニケーションの影響・機能について、高度な理論的研究を行うとともに、実践的スキルを修得させ、修了後は研究者として、あるいは官民の研究機関・メディア機関や一般コミュニケーション関連企業等において活躍できる人材の育成を目的とする。

ディプロマ･ポリシー

・幅広い国際的視野と高度な学術的な知見に基づいてメディアの重要な社会的課題を理解することができる。（知識・技能）
・高度な専門家としてメディアの重要課題の解決に有効な学際的で独創的な研究によって学界・産業界・国際社会などに貢献ができる。（思考力・判断力・表現力）
・民主的で公正な社会実現に向けてメディアの重要な課題を解決するために自立した専門的な探求ができる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

・国際的な視野を持つ高度な専門家として、メディアとジャーナリズムの関わり、情報と社会の関わり、文化とコミュニケーションの関わりという視座からの独創的な研究によって、学界・産業界・国際社会などに貢献ができる人材を育成するため、指導教員により深く専門的な教育指導を行う研究指導科目を設置する。
・研究指導科目は各専任教員の「メディア学特殊研究」からなるが、さらに授業科目である個々の研究領域の各「特殊講義」および「リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において学びを深め、メディアの課題をより深く理解し、その解決に向けた学界・産業界・国際社会などに貢献する独創的な研究を行いうるために、計 18 単位以上を履修する。「リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では多角的、学際的な視野をもった専門家の育成をめざす。その上で、毎年全教員が参加する中間発表会での個々人の研究の錬磨、副指導教員制度の活用、さらには学会発表および学術論文の作成を行うことを通じて、博士号取得に向けた高度な学術研究の方法とその実践的応用、また形式知のみならず暗黙知に至るまで身に付けることを目標として履修する。
・研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

■教育文化学専攻

前期課程

人材養成に関する目的

教育文化学専攻博士課程（前期）は、多文化共生社会における教育文化による人間形成について、理論研究およびフィールド研究に取り組むことで、多文化間の相互理解における問題を解決し、相互理解を促進しうる高度職業人の育成を目指す。

ディプロマ･ポリシー

・多文化共生社会における教育文化による人間形成について、客観性と独創性のある研究に必要な諸理論と学際的方法に基づいて体系的な論文執筆ができる。（知識・技能）
・多文化共生社会における教育文化による人間形成について、諸理論と学際的方法に基づいて問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。（思考力・判断力・表現力）

・多文化共生社会における教育文化による人間形成について、学際的な視野を持って主体的に活動する高度職業人としての態度を育成できる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム・ポリシー

・ディプロマ・ポリシーに基づき、多文化共生社会における教育文化による人間形成について、関係する理論と手法、およびフィールド研究による理論と実践の架橋を通じて、問題発見、分析、解決に自立的な貢献ができるだけの知識と技能と態度を習得することを到達目標とし、必修科目と選択科目から構成されるカリキュラムを設置する。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

・必修科目は、多文化共生社会における教育文化による人間形成を、基盤となる理論から理解し、多文化間の相互理解を推進できるように、教育文化学研究の理論と方法、教育文化学演習、修士論文執筆に至るまでの自立的な研究能力を育成する目的で実施する教育文化学総合演習によって構成され、計 10 単位から成り立っている。教員全員による指導体制が基盤となる総合演習を通じて、幅広い知識と手法の習得を確実にする。

・選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目は 20 単位以上を修得する。選択科目は、必修科目に加え、多文化共生社会における教育文化による人間形成を理解し、多文化間の相互理解を推進していくことを到達目標にし、多様な学際的側面から知識と技能を習得するための科目によって構成されている。

後期課程

人材養成に関する目的

教育文化学専攻博士課程（後期）は、多文化共生社会おける教育文化による人間形成について理論研究およびフィールド研究に取り組むことで、多文化間の相互理解に関する高度な研究能力と学際的視野を有する研究者、教育者の育成を目指す。

ディプロマ・ポリシー

・多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、高度な研究能力を習得し、それぞれの専門分野において新しい知見を提供する高度な論文を執筆することができる。（知識・技能）

・多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、諸理論と学際的方法に基づいて、より高度な問題発見、分析、解決ができ、これを公表することができる。（思考力・判断力・表現力）

・多文化共生社会における教育文化による人間形成、多文化間の相互理解について、学際的な視野を持って主体的に活動する研究者、教育者としての態度を育成できる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム・ポリシー

・ディプロマ・ポリシーに基づき、博士後期課程では、深い専門的な知識と理論を探求するため、研究指導科目である教育文化学特殊研究を通じて、教員から専門的な指導を受けると同時に、授業科目によって構成されるカリキュラムから 16 単位以上を修得するという単位制度を基本としている。

・授業科目は、研究指導科目に加え、多文化共生社会における教育文化による人間形成を理解し、多文化間の相互理解を推進していくことを到達目標にし、多様な学際的な側面から知識と技能を習得するための科目によって構成されている。

・研究指導科目および授業科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

▮社会学専攻

前期課程

人材養成に関する目的

社会学専攻博士課程（前期）は、社会学・人類学という学問分野についての理論・実証の両側面をともに重視した教育をとおして、(1)人間社会についての洞察力と問題整理能力、(2)社会統計学の知識に基づく計量調査能力、(3)フィールドワークに基づく質的調査能力を身に付け、行政・民間企業・NPO/NGO の研究員、職員、教員として活躍する人材や研究者を目指す人材の養成を目的とする。

ディプロマ･ポリシー

・多様な社会学理論を理解し、社会統計学やフィールドワークの手法など調査研究方法に関する知識を習得する。（知識・技能）
・専門社会調査士レベルの実証的研究能力をベースに、調査の企画･実践力ならびに学会･研究会・学術雑誌での発表･表現力を身に付ける。（思考力・判断力・表現力）
・学生が各自で学ぶべき研究分野とテーマを選び、自分の専門性を深め、主体的な研究態度を身に付ける。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

・ディプロマ・ポリシーに示した人材を養成するために、講義科目、演習科目、論文指導科目から構成されるカリキュラムを設置する。講義科目、演習科目、論文指導科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。
・講義科目は、下記の 3 群に分かれる。
　A 群：「個人と社会」をめぐる微視的な問題領域（ミクロ科目群）
　B 群：巨視的な動的社会過程を射程に入れた研究領域（メゾ・マクロ科目群）
　C 群：社会学の理論・実証研究の基本を学ぶ基礎科目（共通科目群）
・上記に加えて、各科目群の内容をより深く探求するために演習を設置し、また修士論文作成のための指導を行う特別演習を設置している。
・講義科目の各群から 4 単位以上、演習科目から 2 単位以上、さらに上記科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目から 12 単位以上と論文指導科目（特別演習）4 単位の、計 30 単位以上を履修する。なお、修士論文を提出する年度に、修士論文構想発表会で報告をすることが必要である。

後期課程

人材養成に関する目的

社会学専攻博士課程（後期）は、社会学・人類学という学問分野についての自立した専門的研究教育者養成をめざして行われる教育をとおして、(1)人間社会に対する深い洞察力、(2)オリジナルな研究を論理的かつ説得的に展開する能力、(3)専門分野におけるコミュニケーションや組織化の能力を身に付け、大学をはじめ各種研究機関において専門教育研究職として社会に貢献する人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー

・社会学、社会心理学、社会人類学それぞれにおけるオリジナルな調査研究を展開するために必要な幅広い知識を習得する。（知識・技能）
・前期課程で習得した基礎研究能力に加え、専門分野におけるコミュニケーション能力や組織力、研究資源の獲得・管理能力、オリジナルな調査研究の構築力を養う。（思考力・判断力・表現力）
・人間社会に対する深い洞察力を持ち、高い倫理性を併せ持つ自立した研究者となることを目指す。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム・ポリシー

【2018 年度以降生】

・ディプロマ・ポリシーに基づき、博士後期課程では、深い専門的な知識と理論を探求するため、院生は指導教員の研究指導科目である社会学特殊研究を登録し、博士学位請求論文の作成に向けての指導を受けると同時に、「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ」を含めて 14 単位以上の単位を修得する。研究指導科目ならびに授業科目は、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。
・最終的には学位請求論文の完成が目標となるが、国際学会や全国学会での研究発表、学会専門誌での論文発表が前提となる。各自のオリジナルな研究成果を論理的かつ説得的に発表できるように指導することが教育の柱となる。また適宜、副指導教員を含む他の教員からも指導を受けることにより、より広い視座を獲得することも必要となる。

【2017 年度以前生】

後期課程では、院生は指導教員の研究指導科目を登録し、博士学位請求論文の作成に向けての指導を受ける。最終的には学位請求論文の完成が目標となるが、国際学会や全国学会での研究発表、学会専門誌での論文発表が前提となる。各自のオリジナルな研究成果を論理的かつ説得的に発表できるように指導することが教育の柱となる。また適宜、副指導教員を含む他の教員からも指導を受ける。研究指導科目は、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。

▮ 産業関係学専攻

前期課程

人材養成に関する目的

産業関係学専攻博士課程（前期）は、雇用・労働に関わる問題の分析とその解決についてフィールドワークでの検証やリサーチ・セミナーでの議論をとおして、事例分析と数値データ解析という二つの実証分析能力を涵養するとともに、収集した事実を整理・体系化して理論的知見に基づいた雇用ルールの制度設計等を行う能力を身に付けて、人事管理の専門家として、企業や行政機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

・産業社会が直面する雇用・労働に関する実際的問題を、実証分析に基づき論理的・体系的に認識できる。（知識・技能）
・雇用・労働問題を論理的に認識するために、テキスト・数値という２種のデータの実証分析ができる。（思考力・判断力・表現力）
・産業社会が直面する雇用・労働問題を発見・体系化し、理論的知見に基づき新たな雇用ルールを提起できる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム･ポリシー

・産業社会が直面する雇用・労働に関する実際的問題を、実証分析に基づき論理的・体系的に認識できるようになるために必修科目と選択科目を設置し、必修科目は 12 単位以上、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目は 18 単位以上の履修を求めている。必修科目および選択科目はそれぞれ、「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されており、各科目群の概要は次のとおりである。

・必修科目には、産業関係学の体系と方法を理解するために産業関係学研究を、また雇用関係が表出する場である労働市場のメカニズムを理解するために労働市場論の 2 科目を講義形式で設置する。

・さらに雇用・労働に関する問題を実証分析に基づき論理的・体系的に認識し、新たな雇用ルールの提起ができるようになるために、必修科目に産業関係学演習Ⅰ・産業関係学演習ⅡA・産業関係学演習ⅡB をテキスト情報系と数値情報系の 2 系統にわたって設置する。また各人が講義・演習で養ってきた産業関係に関わる知見を相互に交流するため、同じく必修科目にリサーチ・セミナーを設置する。

・選択科目には、雇用・労働現象を理解するための理論を学ぶ 11 の講義を設置する。また雇用・労働に関するテキストデータ・数値データの解析能力を涵養するために、労働調査研究Ⅰ・Ⅱと労働統計研究Ⅰ・Ⅱを設置する。以上の講義と演習によって養成した実証分析能力を使って独力でリサーチを実行できるようになるために、実習形式の産業関係フィールドワークを設置する。

後期課程

人材養成に関する目的

産業関係学専攻博士課程（後期）は、雇用・労働に関わる問題について学会での研究発表や学術論文の執筆を行うことにより、高度な専門知識・革新的な研究方法や分析能力を実践的に涵養することをとおして､産業関係学の高度な研究能力と雇用ルールの制度設計等を行う能力を身に付けて、労働研究及び人材マネジメントの専門家として大学・研究機関・企業・行政機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

ディプロマ･ポリシー

・雇用・労働問題を専門的実証的に分析することにより、雇用と労働を巡る事実と理論を相互媒介的に認識できるようになる。（知識・技能）

・理論的知見に基づき新たな雇用制度を提起するために、博士論文等の学術論文の執筆、学会での研究発表等ができるようになる。（思考力・判断力・表現力）

・雇用・労働問題を専門的実証的に分析することにより、課題の解決に向けた新たな雇用ルールの制度設計を行うことができる。（主体性・多様性・協働性）

カリキュラム・ポリシー

・深く専門的な知識と理論を探求するため、研究指導科目である産業関係学特殊研究（テキスト情報系・数値情報系）を通じて、教員から専門的な指導を受けると同時に、授業科目の中から、合同演習形式の「アドバンスト・リサーチ・セミナー」2 単位を含め 12 単位以上を修得するという単位制度を基本としている。

・研究指導科目では、雇用・労働を巡る社会現象の観察から出発して、社会現象の中にある法則や特質を解明し、学問的知見に基づいて雇用ルールの制度設計を行えるようになると共に、明らかになった知見を学会発表や博士論文等の学術論文の形で公表することを目指している。

・授業科目は、それぞれ「学力の三要素/領域」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を養う「総合群」として設計されている。
・これらを通じて、雇用・労働問題を専門的、実証的に分析することにより、雇用と労働を巡る事実と理論を相互媒介的に認識し、新たな雇用ルールの制度設計を遂行できる労働研究及び人材マネジメントの専門家の育成を目指している。

博士課程（前期課程）

【　】内は関連の規則等を表す

１．修業年限と在学年限 …… 【同志社大学大学院学則 第４条】

博士課程の前期課程の標準修業年限は **２年**です。**４年**を超えて在学することはできません。

２．課程修了の要件 …… 【同志社大学大学院学則 第７条】

修士学位を取得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

（１）博士課程の前期課程に２年以上在学すること。（休学期間を除く）

（２）授業科目について 30 単位以上修得すること。

（３）必要な研究指導を受けたうえ、修士学位論文を提出し、合格すること。

３．履修方法・修了必要単位数

各専攻の授業科目・履修方法等は、開講科目一覧表をご覧ください。

４．学位論文審査および課程修了の認定 …… 【同志社大学学位規程 第８条】

修士学位論文は、在学期間中に審査を終了します。また、課程修了の認定は、研究科長会において行います。

５．学位の名称 …… 【同志社大学大学院学則 第 10 条】

課程修了の認定を得た学生に授与される学位は次のとおりです。

修士（社会福祉学）	Master of Social Welfare
修士（メディア学）	Master of Arts in Media Studies
修士（教育文化学）	Master of Arts in Education and Culture
修士（社会学）	Master of Arts in Sociology
修士（産業関係学）	Master of Arts in Industrial Relations

６．修士学位取得までのプロセス

修士学位を取得するためには、

①各専攻が定める所定の授業科目を履修し、修了に必要な単位数を修得すると共に、

②研究指導を通じて修士学位論文を作成し、これに合格しなければなりません。下記に記載する共通事項以外に、各専攻からの指示を踏まえ、２年間の各自の研究計画を組み立ててください。

第１年次　　年度始め　履修科目の登録
　　各学期中　演習科目（総合演習など）で研究指導・研究発表
　　研究成果公表の推奨
　　１年間の指導の中で指導教員を決定する

第２年次以上　年度始め　履修科目の登録　（論文の登録を含む）
　　各学期中　指導教員による研究指導
　　演習科目（総合演習など）で研究発表
　　研究成果公表の推奨
　　１月中旬　修士学位論文提出

修士学位論文提出後（修士学位論文審査）
　　論文提出後　　論文審査委員会の設置（主査・副査）
　　１月～２月中旬　論文査読・口頭試問
　　２月～３月初旬　修士学位論文総合審査（社会学研究科委員会、研究科長会）
　　３月下旬　　学位授与式

７．同志社大学大学院社会学研究科　修士論文の審査方法と体制
　　審査方法　：　論文査読・口頭試問にて審査
　　審査体制　：　主査１名・副査２名

８．同志社大学大学院社会学研究科　修士論文審査基準

1．問題意識が明確で、課題設定が適切であること
2．先行研究を適切に検討・吟味していること
3．研究方法が研究課題に照らして妥当であること
4．論理展開が首尾一貫していること
5．記述や論証が説得的であること
6．引用作法を遵守し、研究倫理に配慮していること
7．内容に一定の独創性があること
8．学術的もしくは社会的貢献を期待できること

社会学研究科 修士論文提出要領

（1）使用言語

論文は、原則、日本語で作成しなければならない。ただし、指導教員が日本語以外の言語で作成する必要性を認めた場合、研究科委員会の了承を得たうえで、日本語以外の言語での論文作成が認められる。日本語以外の言語で作成する場合は、提出年度の 4 月までに指導教員に確認すること。

（2）論文枚数等

①日本語の場合（詳細については指導教員の指示を受けること）

社会福祉学専攻	本文 24,000 字以上。原則としてワープロを使用。A4 判用紙に横書。 文献の引用・参照方法等は、日本社会福祉学会の学会誌の執筆要領による。
メディア学専攻	本文 24,000 字以上。原則としてワープロを使用。A4 判用紙。
教育文化学専攻	本文 40,000 字前後。原則としてワープロを使用。A4 判用紙。
社 会 学 専 攻	本文 42,000 字以上（1 ページ 1,200 字（40 字×30 行）で 35 枚以上）。 ワープロを使用。A4 判用紙に横書。
産業関係学専攻	本文 24,000 字以上。ワープロを使用。A4 判用紙に横書。 1 ページ 40 字×36 行とする。

②日本語以外の言語の場合は、指導教員からの指示による。

（3）提出日程（予定）

	「論文」登録	提出締切日	口頭試問等	総合審査日
春学期	科目登録期間	6 月中旬（別途掲示）	6 月下旬～7 月中旬	2024 年 9 月 12 日（木）
秋学期	〃	1 月中旬（別途掲示）	1 月下旬～2 月中旬	2025 年 3 月 6 日（木）

提出場所： 社会学部・社会学研究科事務室（臨光館 1 階） 窓口取扱時間内

（4）提出書類等

①修士論文 3 部

論文には本文と同じ用紙で標題紙（ﾀｲﾄﾙﾍﾟｰｼﾞ）を付け、標題紙に、題名、専攻、入学年度、学生 ID、氏名を明記し、さらに黒表紙で綴じること（横綴じ）。黒表紙には標題紙のコピーを貼付すること。

②論文梗概 3 部

修士論文と同じ様式で、1,000 字以内とし、修士論文標題紙（ﾀｲﾄﾙﾍﾟｰｼﾞ）の前に綴じること。

論文梗概にも標題紙を付け、梗概標題紙には「論文梗概」と記し、題名、専攻、入学年度、学生 ID、氏名を明記すること。

③写 真 3 枚（縦 6cm×横 5cm または 縦 4.5cm×横 3.5cm 上半身脱帽）

事務室で配付する所定の写真台紙に貼付し、修士論文標題紙(ﾀｲﾄﾙﾍﾟｰｼﾞ)の次に綴じること。

④修士論文標題紙（ﾀｲﾄﾙﾍﾟｰｼﾞ）のコピー 1 部

⑤提出者調書（事務室で配付する所定用紙）

⑥製本代納入済証

証明書自動発行機で購入する。

（「社会学研究科修士論文・研究課題製本費 納入済証」2,860 円を購入）

（5）提出資格

・所定の年限を在学し、定められた単位を修得した者および修得見込である者。

・年度始めの履修科目登録期間に、専攻教務主任の指示により「指導教員の演習科目」および**「論文」を登録**した者。ただし、3 年目以上の者については専攻教務主任の指示に従うこと。

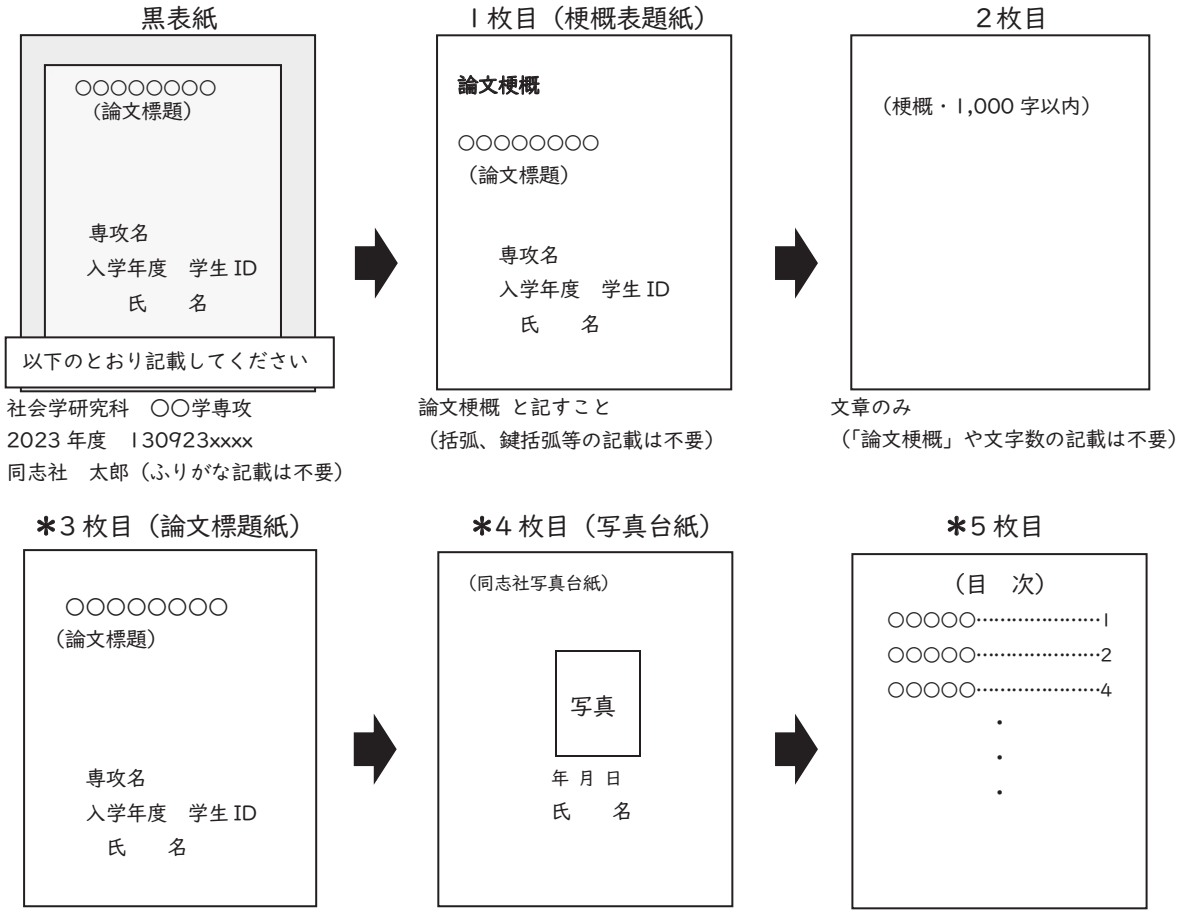
・修士論文提出時に**学生納付金を完納**していること。

（6）備　考

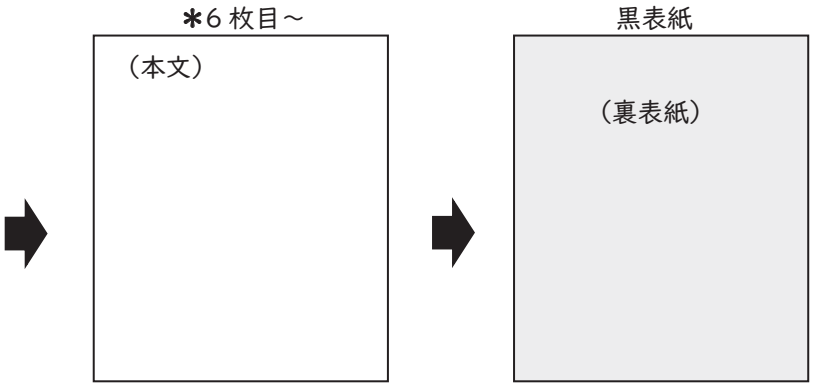
・原則として社会学研究科では秋学期修了とする。
・論文および梗概の正本以外はコピーでもよい。
・事前に修得単位数の確認をしておくこと。
・提出し合格した論文および梗概は、製本後に研究室図書として保管されて閲覧に供する。
・提出し合格した論文および梗概は、社会学研究科内で電子ファイルにデータ変換し、保管する。不測の事態により学部図書室所蔵の正本が紛失・破損等をした場合に複製を作成するためにのみ用いることとし、一般利用者の閲覧やデータの提供は行わない。

※共同研究室内個人ロッカーの鍵と図書等を修了時までに必ず返却すること。

標題紙の綴じ方



＊梗概が 2 枚以上の場合は梗概の次の枚数。以下同じ。　（↑3 ヶ月以内に撮影のもの）



社会福祉学専攻

開講科目一覧表

科目群		履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など
必修科目		2～	30910091	001	社会福祉学論文指導Ⅰ ①	2	永田　祐	春学期	2	不可	
				002	〃 ②	2	休講				
				003	〃 ③	2	野村　裕美	春学期	2	不可	
				004	〃 ④	2	木原　活信	春学期	2	不可	
				005	〃 ⑤	2	小山　隆	春学期	2	不可	
				006	〃 ⑥	2	鈴木　良	春学期	2	不可	
				007	〃 ⑦	2	空閑　浩人	春学期	2	不可	
		2～	30910092	001	社会福祉学論文指導Ⅱ ①	2	永田　祐	秋学期	2	不可	
				002	〃 ②	2	休講				
				003	〃 ③	2	野村　裕美	秋学期	2	不可	
				004	〃 ④	2	木原　活信	秋学期	2	不可	
				005	〃 ⑤	2	小山　隆	秋学期	2	不可	
				006	〃 ⑥	2	鈴木　良	秋学期	2	不可	
				007	〃 ⑦	2	空閑　浩人	秋学期	2	不可	
選択科目	A群	1～	30910001		社会福祉体系Ⅰ	2	空閑　浩人	春学期	2	可	
		1～	30910002		社会福祉体系Ⅱ	2	小山　隆	秋学期	2	可	
		1～	30910006		社会福祉調査研究	4	鈴木　良	通年	2	不可	
		1～	30910111		フィールドワークⅠ	4	休講				
		1～	30910112		フィールドワークⅡ	4	野村　裕美	通年	2	不可	
		1～	30910115		社会福祉学特殊研究A1	4	休講				
		1～	30910116		社会福祉学特殊研究A2	4	齋藤　立滋	通年	2	可	
		1～	30910117		社会福祉学特殊研究A3	2	休講				
		1～	30910118		社会福祉学特殊研究A4	2	休講				
	B群	1～	30910005		福祉思想・福祉哲学研究	4	木原　活信	春学期	4	可	
		1～	30910121		キリスト教福祉学研究	4	休講				
		1～	30910125		社会福祉学特殊研究B1	4	休講				
		1～	30910126		社会福祉学特殊研究B2	4	休講				
		1～	30910127		社会福祉学特殊研究B3	2	休講				
		1～	30910128		社会福祉学特殊研究B4	2	休講				
	C群	1～	30910004		社会保障研究	4	休講				
		1～	30910007		地域福祉研究	4	永田　祐	通年	2	不可	
		1～	30910012		国際社会福祉研究	4	休講				
		1～	30910135		社会福祉学特殊研究C1	4	居神　浩	通年	2	可	
		1～	30910136		社会福祉学特殊研究C2	4	休講				
		1～	30910137		社会福祉学特殊研究C3	2	休講				
		1～	30910138		社会福祉学特殊研究C4	2	休講				

科目群		履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など
選択科目	D群	1～	30910003		社会福祉組織・管理論	4	休講				
		1～	30910015		ソーシャルワーク研究Ⅰ	4	小山　隆	春学期	4	可	
		1～	30910016		ソーシャルワーク研究Ⅱ	4	空閑　浩人	秋学期	4	可	
		1～	30910025		事例研究法	2	休講				
		1～	30910145		社会福祉学特殊研究D1	4	休講				
		1～	30910146		社会福祉学特殊研究D2	4	休講				
		1～	30910147		社会福祉学特殊研究D3	2	休講				
		1～	30910148		社会福祉学特殊研究D4	2	休講				
	E群	1～	30910151		社会福祉学特殊研究E1	4	休講				
		1～	30910152		社会福祉学特殊研究E2	4	休講				
		1～	30910153		社会福祉学特殊研究E3	4	休講				
		1～	30910154		高齢者福祉研究	4	休講				
		1～	30190155		社会福祉学特殊研究E4	2	休講				
		1～	30910156		社会福祉学特殊研究E5	2	休講				
		1～	30910157		社会福祉学特殊研究E6	2	休講				
		1～	30910158		障害者福祉研究	4	鈴木　良	通年	2	可	
		2～	30910099		論　文			通年		不可	

履修方法

指導教員の指示により、必修科目4単位、選択科目A群～E群の中から4群を選択し、それぞれ4単位以上、さらに選択科目A群～E群、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から10単位以上、合計30単位以上を履修すること。
なお、第2年次に指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

必修科目	選択科目						合計
	A群	B群	C群	D群	E群	他専攻科目・他研究科科目・高等研究教育院設置科目	
4単位	（4単位）	（4単位）	（4単位）	（4単位）	（4単位）	10単位以上	**30単位以上**
	A～E群の5つの中から4群を選び、16単位以上（各4単位以上）						

実験実習料が必要な科目

対象科目：　フィールドワークⅠ・Ⅱ
金　　額：　登録時に5,000円、実習先決定後に30,000円が必要です。
納入方法：　実験実習料(登録時に納入分)については所定用紙(事務室で配付)と納入済証（尋真館1階に設置の証明書自動発行機で購入）を添付して、提出してください。加えて、実習決定後、30,000円を納入してください。納入方法については後日掲示板等で指示します。

アドバイザーについて

アドバイザー設置の目的は、博士前期課程1年目春学期の研究と履修をスムーズに促進することです。履修や研究上の課題・問題が発生した場合、あるいは相談がある場合には、まず最初に「アドバイザー」に相談してください。社会福祉学専攻では、アドバイザーから専攻教務主任、さらには専攻教務主任が大学院担当者会議を招集し、協議のうえ、改善・解決をはかるシステムとなっています。
なお、アドバイザーは1年目秋学期開始時点に決定する「修士論文指導教員（主査）」とは切り離されたものです。つまり、アドバイザーが必ずしも指導教員になるわけではありません。
アドバイザーの決定にあたっては、入学後に提出された研究テーマ、研究計画などの内容を検討し、大学院担当者会議にて決定します。

指導教員（主査）について

指導教員（主査）は1年目秋学期開始時点で決定します。決定のための手続き、その後の指導方法は、次のスケジュールのとおりです。

第1年次	8月末日	指導教員決定のための「修士論文：研究テーマ＆研究計画書」「指導教員希望届出」の提出
	9月	大学院担当者会議での指導教員（主査）、副査の決定
第2年次	4月	指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録、履修

修士論文提出までの主な予定

修士論文提出のためのスケジュールは次のとおりです。ただし、年度によって日程は多少のズレがありますので、その都度、専攻教務主任、主査の指示に従ってください。

第1年次	9月	指導教員（主査）、副指導教員（第一副査）の決定
	3月	修士論文題目の届出
第2年次	4月	指導教員が担当する「社会福祉学論文指導Ⅰ・Ⅱ」の登録
		※指導教員と修士論文題目、研究計画についての相談
		研究科委員会：「修士論文作成要領」の審議・決定
	5～6月	修士論文作成発表Ⅰ　（論文作成の今後の予定を明らかにするものです）
	10～11月	修士論文作成発表Ⅱ　（論文の完成状況を明らかにするものです）
		※発表Ⅰ・Ⅱでは、次のようなレジュメを配布してください。 1．修士論文題目 2．概要（ねらいと研究方法） 3．目次（章・節・項）とそれぞれの内容 原則として、この発表（Ⅰ・Ⅱ）をしない時点で当該年度の修士論文提出ができないと判断します。
	11月下旬	修士論文題目の確定
		修士論文作成発表Ⅱの指導により修士論文題目を変更する場合は、指導教員の承認を受けた後、所定用紙にて提出してください。なお、以後の題目変更は認められません。
		第二副査の決定
	翌年1月中旬	修士論文提出期限
		締切時間経過後は一切受け付けません。提出後の差し替えなどもできません。
	2月中旬	修士論文口頭試問
		研究科委員会：修士論文審査
	3月上旬	研究科長会：修士学位総合審査
	3月下旬	学位授与式（修了）

※修士論文未提出の再履修生は、別途、指導教員（主査）および専攻教務主任の指示を受けてください。

メディア学専攻

開講科目一覧表

科目群	履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など
講義科目	1～	30920001		マス・コミュニケーション論	2	休講				
	1～	30920038		社会学とメディアⅠ	2	休講				
	1～	30920002		国際コミュニケーション論	2	休講				
	1～	30920039		社会学とメディアⅡ	2	休講				
	1～	30920003		メディア史	2	休講				
	1～	30920004		ジャーナリズム史	2	休講				
	1～	30920005		言論の自由と報道倫理	2	伊藤　高史	春学期	2	不可	2022年度以前生のみ登録できる
	1～	30920040		社会学と情報社会Ⅰ	2	伊藤　高史	春学期	2	不可	2023年度以降生のみ登録できる
	1～	30920006		情報法制論	2	伊藤　高史	秋学期	2	不可	2022年度以前生のみ登録できる
	1～	30920041		社会学と情報社会Ⅱ	2	伊藤　高史	秋学期	2	不可	2023年度以降生のみ登録できる
	1～	30920007		ジャーナリズム論	2	休講				
	1～	30920011		社会関係論	2	休講				
	1～	30920012		メディア社会論	2	佐伯　順子	秋学期	2	可	
	1～	30920013		コミュニケーション論	2	池田　謙一	春学期	2	可	
	1～	30920014		相互行為論	2	休講				
	1～	30920015		現代社会論	2	休講				
	1～	30920016		情報環境論	2	池田　謙一	秋学期	2	可	
	1～	30920019		表現技術論	2	休講				
	1～	30920020		表象メディア論	2	阿部　康人	秋学期	2	可	
	1～	30920021		消費情報論	2	休講				
	1～	30920022		広告論	2	休講				
	1～	30920023		情報意味論	2	阿部　康人	春学期	2	可	
	1～	30920025		メディア認知論	2	休講				
	1～	30920026		社会ネットワーク論	2	休講				
	1～	30920027		メディア文化史	2	竹内　幸絵	春学期	2	可	
	1～	30920028		映像情報論	2	休講				
	1～	30920029		メディアとジェンダー論	2	佐伯　順子	春学期	2	可	
	1～	30920030		ニュース論	2	休講				
	1～	30920031		調査報道論	2	休講				
	1～	30920032		取材編集論	2	休講				
	1～	30920033		メディア学理論史	2	河崎　吉紀	秋学期	2	可	
	1～	30920034		新聞学学説史	2	河崎　吉紀	春学期	2	可	
	1～	30920035		メディア論	2	勝野　宏史	春学期	2	可	
	1～	30920036		デジタル・メディア論	2	勝野　宏史	秋学期	2	可	
	1～	30920037		広報学	2	竹内　幸絵	秋学期	2	可	
	1～	30920042		メディア・コミュニケーション論Ⅰ	2	休講				
	1～	30920043		メディア・コミュニケーション論Ⅱ	2	休講				
	1～	30920044		メディア文化論	2	休講				
	1～	30920045		メディア人類学	2	休講				
演習科目	1～	30920051		演習ＩＡ（マス・コミュニケーション研究）	1	休講				
	1～	30920091		演習ＩＡ（社会学とメディア研究Ⅰ）	1	休講				
	1～	30920052		演習ＩＢ（国際コミュニケーション研究）	1	休講				
	1～	30920092		演習ＩＢ（社会学とメディア研究Ⅱ）	1	休講				
	1～	30920053		演習ⅡＡ（ジャーナリズム研究）	1	休講				
	1～	30920057		演習ⅣＡ（コミュニケーション研究）	1	池田　謙一	春学期	2	可	
	1～	30920058		演習ⅣＢ（相互行為論研究）	1	休講				

科目群	履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など
演習科目	1～	30920059		演習ＶＡ（新聞学学説史研究）	1	河崎　吉紀	春学期	2	可	
	1～	30920060		演習ＶＢ（メディア学理論史研究）	1	河崎　吉紀	秋学期	2	可	
	1～	30920061		演習ⅥＡ（現代社会研究）	1	休講				
	1～	30920062		演習ⅥＢ（情報環境研究）	1	池田　謙一	秋学期	2	可	
	1～	30920063		演習ⅦＡ（報道倫理研究）	1	伊藤　高史	春学期	2	不可	2022年度以前生のみ登録できる
	1～	30920093		演習ⅦＡ（社会学と情報社会研究Ⅰ）	1	伊藤　高史	春学期	2	不可	2023年度以降生のみ登録できる
	1～	30920064		演習ⅦＢ（情報法制研究）	1	伊藤　高史	秋学期	2	不可	2022年度以前生のみ登録できる
	1～	30920094		演習ⅦＢ（社会学と情報社会研究Ⅱ）	1	伊藤　高史	秋学期	2	不可	2023年度以降生のみ登録できる
	1～	30920065		演習ⅧＡ（社会関係研究）	1	休講				
	1～	30920069		演習ＸＡ（表現技術研究）	1	休講				
	1～	30920070		演習ＸＢ（表象メディア研究）	1	阿部　康人	秋学期	2	可	
	1～	30920071		演習ⅪＡ（消費情報論研究）	1	休講				
	1～	30920072		演習ⅪＢ（広告論研究）	1	休講				
	1～	30920073		演習ⅫＡ（情報意味論研究）	1	阿部　康人	春学期	2	可	
	1～	30920075		演習ⅩⅢＡ（メディア認知論研究）	1	休講				
	1～	30920076		演習ⅩⅢＢ（社会ネットワーク論研究）	1	休講				
	1～	30920077		演習ⅩⅣＡ（メディア表現史研究）	1	竹内　幸絵	春学期	2	不可	
	1～	30920078		演習ⅩⅣＢ（映像情報研究）	1	休講				
	1～	30920079		演習ＸＶＡ（メディアとジェンダー研究）	1	佐伯　順子	春学期	2	可	
	1～	30920081		演習 ⅩⅥA（ニュース研究）	1	休講				
	1～	30920082		演習ⅩⅥＢ（調査報道研究）	1	休講				
	1～	30920084		演習ⅩⅦＢ（取材編集研究）	1	休講				
	1～	30920085		演習ⅢＡ（メディア史研究）	1	休講				
	1～	30920086		演習ⅢＢ（ジャーナリズム史研究）	1	休講				
	1～	30920087		演習ⅧＢ（メディア社会研究）	1	佐伯　順子	秋学期	2	可	
	1～	30920088		演習ⅩⅧＡ（メディア論研究）	1	勝野　宏史	春学期	2	不可	
	1～	30920089		演習ⅩⅧＢ（デジタル・メディア論研究）	1	勝野　宏史	秋学期	2	不可	
	1～	30920090		演習ⅩⅨ（広報学研究）	1	竹内　幸絵	秋学期	2	不可	
	1～	30920095		演習ＸＸA（メディア・コミュニケーション研究Ⅰ）	1	休講				
	1～	30920096		演習ＸＸB（メディア・コミュニケーション研究Ⅱ）	1	休講				
	1～	30920097		演習ＸＸＩＡ（メディア文化論研究）	1	休講				
	1～	30920098		演習ＸＸＩＢ（メディア人類学研究）	1	休講				
	2～	30920099		論　文			通年		不可	

履修方法

指導教員の指示により、講義科目から16単位以上および演習科目から2単位以上を選択履修し、さらに、講義科目・演習科目ならびに社会学研究科の他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から12単位以上を選択履修すること。なお、第2年次に「論文」を履修すること。

講義科目	演習科目	他専攻科目・他研究科科目・高等研究教育院設置科目	合計
16単位以上	2単位以上	12単位以上	**30単位以上**

＊メディア学専攻では、前期課程学生のメディア学についての基礎知識を補完する目的で次の内規を定める。

博士課程（前期課程）メディア学専攻に入学した学生のうち、他大学出身者、もしくは本学他学部、他学科、他専攻出身者は、同志社大学社会学部メディア学科が提供しているメディア学科専任教員の担当する講義科目の中から12単位以上を原則として修得しなければならない。ただし、この単位は前期課程における修得単位としては認定しない。

修士論文提出までの主な予定

第1年次	秋学期中	指導教員の決定
第2年次	6月～7月	春学期修士論文中間発表会
	11月下旬～12月中旬	秋学期修士論文中間発表会
	1月中旬	修士学位論文提出
	2月初旬	修士論文口頭試問

中間発表については、論文提出学年度の春学期および秋学期に行い、学部卒論提出時に修論仮提出（3部）を行う。詳細は指導教員に尋ねること。

教育文化学専攻

開講科目一覧表

科目群	履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ クラスｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など
必修科目	1～	30960001		教育文化学研究の理論と方法Ⅰ	2	山田　礼子	春学期	2	不可	
	1～	30960002		教育文化学研究の理論と方法Ⅱ	2	越水　雄二	秋学期	2	不可	
	1～	30960003		教育文化学総合演習Ⅰ	2	吉田　亮 山田　礼子 中川　吉晴 越水　雄二 W. R. STEVENSON III 兒島　明 奥井　遼 崔　紗華	通年	2	不可	
	2～	30960004		教育文化学総合演習Ⅱ	2	吉田　亮 山田　礼子 中川　吉晴 越水　雄二 W. R. STEVENSON III 兒島　明 奥井　遼 崔　紗華	通年	2	不可	
	2～	30960301	001	教育文化学演習　①	2	吉田　亮	通年	2	不可	
			002	〃　②	2	兒島　明	通年	2	不可	
			003	〃　③	2	奥井　遼	通年	2	不可	
			004	〃　④	2	中川　吉晴	通年	2	不可	
			005	〃　⑤	2	越水　雄二	通年	2	不可	
			006	〃　⑥	2	W. R. STEVENSON III	通年	2	不可	
			007	〃　⑦	2	山田　礼子	通年	2	不可	
選択科目	1～	30960201		キリスト教教育文化論特講Ⅰ	2	休講				
	1～	30960202		キリスト教教育文化論特講Ⅱ	2	休講				
	1～	30960203		キリスト教人間形成論特講Ⅰ	2	休講				
	1～	30960204		キリスト教人間形成論特講Ⅱ	2	休講				
	1～	30960221		日本教育文化論特講Ⅰ	2	兒島　明	春学期	2	可	
	1～	30960222		日本教育文化論特講Ⅱ	2	兒島　明	秋学期	2	可	
	1～	30960223		西洋教育文化論特講Ⅰ	2	越水　雄二	春学期	2	可	
	1～	30960224		西洋教育文化論特講Ⅱ	2	越水　雄二	秋学期	2	可	
	1～	30960211		異文化間心理教育論特講Ⅰ	2	休講				
	1～	30960212		異文化間心理教育論特講Ⅱ	2	休講				
	1～	30960213		アジア教育文化論特講Ⅰ	2	南部　広孝	春学期	集中※	可	
	1～	30960214		アジア教育文化論特講Ⅱ	2	南部　広孝	秋学期	集中※	可	

科目群	履修年次	登録ｺｰﾄﾞ		科　目　名	単位	担当者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ							
選択科目	1～	30960215		移民教育文化論特講Ⅰ	2	吉田　亮	春学期	2	不可	
	1～	30960216		移民教育文化論特講Ⅱ	2	吉田　亮	秋学期	2	不可	
	1～	30960217		比較教育文化論特講Ⅰ	2	山田　礼子	春学期	2	可	
	1～	30960218		比較教育文化論特講Ⅱ	2	山田　礼子	秋学期	2	可	
	1～	30960219		Globalization, Education and Culture I	2	W. R. STEVENSON III	春学期	2	不可	
	1～	30960220		Globalization, Education and Culture II	2	W. R. STEVENSON III	秋学期	2	不可	
	1～	30960225		言語教育文化論特講 Ⅰ	2	奥井　遼	春学期	2	可	
	1～	30960226		言語教育文化論特講 Ⅱ	2	奥井　遼	秋学期	2	可	
	1～	30960231		異文化理解支援実習Ⅰ	2	休講				
	1～	30960232		異文化理解支援実習Ⅱ	2	休講				
	1～	30960271		学校教育文化論特講Ⅰ	2	休講				
	1～	30960272		学校教育文化論特講Ⅱ	2	休講				
	1～	30960283		生涯学習文化論特講Ⅰ	2	中川　吉晴	春学期	2	可	
	1～	30960284		生涯学習文化論特講Ⅱ	2	中川　吉晴	秋学期	2	可	
	1～	30960285		教育文化学調査法Ⅰ	2	井上　毅	春学期	2	可	
	1～	30960286		教育文化学調査法Ⅱ	2	休講				
	1～	30960291		教育文化学総合研究Ⅰ	2	清木　孝悦	春学期	集中※	可	
	1～	30960292		教育文化学総合研究Ⅱ	2	清木　孝悦	秋学期	集中※	可	
	1～	30960293		教育文化学総合研究Ⅲ	2	休講				
	1～	30960294		教育文化学総合研究Ⅳ	2	PATRICK LEE MILLER 中川　吉晴	秋学期	集中※	可	
	1～	30960295		教育文化学総合研究Ⅴ	2	休講				
	1～	30960296		教育文化学総合研究Ⅵ	2	休講				
	2～	30960199		論　文			通年		不可	

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科HPを参照

履修方法

指導教員の指示により、必修科目10単位、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から20単位以上、合計30単位以上を履修すること。
他専攻・他研究科及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）は指導教員の許可を得て履修することができる。なお、第2年次に「論文」を履修すること。

必修科目	選択科目・ 他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	合計
10単位	20単位以上	**30単位以上**

社 会 学 専 攻

開講科目一覧表

科目群		履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など	専門社会調査士
講義科目	A群	1～	30940001		社会人間学研究	4	小林　久高	春学期	4	可		I
		1～	30940002		家族問題研究	4	休講					
		1～	30940003		フィールドワーク研究	4	吉川　徹	春学期	4	可		J
		1～	30940004		社会病理学研究	4	休講					
	B群	1～	30940012		地域社会研究	4	休講					
		1～	30940013		比較社会研究	4	森　千香子	春学期	4	可		J
		1～	30940014		国際比較研究	4	板垣　竜太	秋学期	4	可		
		1～	30940015		集団・組織研究	4	休講					
	C群	1～	30940021		社会学理論研究	4	鵜飼　孝造	春学期	4	可		
		1～	30940022		文化社会学研究	4	休講					
		1～	30940023		社会学研究法	4	休講					
		1～	30940031		社会学特殊講義 Ⅰ	2	板垣　竜太	春学期	2	可		
		1～	30940032		社会学特殊講義 Ⅱ	4	ARNAUD LEFRANC	春学期	集中※	可		
		1～	30940033		社会学特殊講義 Ⅲ	2	MATTIAS VAN OMMEN	春学期	2	可		
		1～	30940034		社会学特殊講義 Ⅳ	2	休講					
演習科目		1～	30940071		社会学特殊研究演習 Ⅰ	2	休講					
		1～	30940072		社会学特殊研究演習 Ⅱ	2	立木　茂雄	通年	2	可		I
		1～	30940073		社会学特殊研究演習 Ⅲ	2	鵜飼　孝造	秋学期	4	可		
		1～	30940074		社会学特殊研究演習 Ⅳ	2	藤本　昌代	春学期	4	可		H
		1～	30940075		社会学特殊研究演習 Ⅴ	2	休講					
		1～	30940076		社会学特殊研究演習 Ⅵ	2	休講					
		1～	30940077		社会学特殊研究演習 Ⅶ	2	尾嶋　史章	春学期	4	可		I
		1～	30940078		社会学特殊研究演習 Ⅷ	2	休講					
論文指導科目		2～	30940081	001	社会学特別演習Ⅰ　①	2	小林　久高	春学期	2	不可		
				002	〃　②	2	立木　茂雄	春学期		不可		
				003	〃　③	2	鵜飼　孝造	春学期		不可		
				004	〃　④	2	藤本　昌代	春学期		不可		
				005	〃　⑤	2	森　千香子	春学期		不可		
				006	〃　⑥	2	休講					
				007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	春学期		不可		
				008	〃　⑧	2	板垣　竜太	春学期		不可		
		2～	30940082	001	社会学特別演習Ⅱ　①	2	小林　久高	秋学期	2	不可		
				002	〃　②	2	立木　茂雄	秋学期		不可		
				003	〃　③	2	鵜飼　孝造	秋学期		不可		
				004	〃　④	2	藤本　昌代	秋学期		不可		
				005	〃　⑤	2	休講					
				006	〃　⑥	2	休講					
				007	〃　⑦	2	尾嶋　史章	秋学期		不可		
				008	〃　⑧	2	板垣　竜太	秋学期		不可		
		2～	30940099		論　文			通年		不可		

履修方法

指導教員の指示により、講義科目の各群からそれぞれ4単位以上、演習科目から2単位以上、さらに上記科目および他専攻・他研究科の科目および高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から12単位以上と論文指導科目4単位の合計30単位以上を履修すること。

なお、第2年次に指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ、Ⅱ」と「論文」を履修するものとする。

<table>
<tr><th colspan="3">講義科目</th><th rowspan="2">演習科目</th><th rowspan="2">他専攻・
他研究科科目・
高等研究教育院
設置科目</th><th rowspan="2">論文指導科目</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>A群</th><th>B群</th><th>C群</th></tr>
<tr><td>4単位以上</td><td>4単位以上</td><td>4単位以上</td><td>2単位以上</td><td rowspan="2">12単位以上</td><td rowspan="2">4単位</td><td rowspan="2"><u>30単位
以上</u></td></tr>
<tr><td colspan="4">12単位以上</td></tr>
</table>

修士論文提出までの主な予定

第1年次	1月末まで	主指導教員の決定
	2月末まで	副指導教員（1人）の決定
第2年次	4月	主指導教員が担当する「社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ」に登録し、指導を受ける。
	4月末まで	研究題目・研究計画について相談する。
	8月	主指導教員に修士論文の第1次ドラフトを提出、指導を受ける。
	10月	専攻の「修士論文構想発表会」で報告（ここで報告しないと、修士論文は提出できません）。
	11月	主指導教員・副指導教員に修士論文の第2次ドラフトを提出、指導を受ける。
	翌年　1月中旬	修士論文提出
	2月中旬	修士論文口頭試問
		専攻会議で修士論文審査
		研究科委員会で修士論文審査
	3月上旬	研究科長会　修士学位総合審査
	3月下旬	学位授与式（修了）

専門社会調査士について

1．専門社会調査士とは

「専門社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる高度な調査能力を身に付けた「調査のプロ」の資格で、調査の問題点や妥当性等の指摘はもちろんのこと、多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する人が認定されます。資格授与機関として、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の相互の連携協力のもとに、2003年11月に「社会調査士資格認定機構」が創設され、2008年11月には社団法人「社会調査協会」へと法人化されています。

認定機構では、2004年より資格認定を行っており、2017年までに全国の参加大学院69校から計583名が専門社会調査士資格を得ています。（また、全国の大学教員や研究者1,934名も専門社会調査士の認定を受けています。）

研究・教育機関のみならず、一般企業・官公庁などの仕事に携わるものにとっても、社会調査の能力は必須のものであり、専門社会調査士は重要な資格となりつつあります。

2. 専門社会調査士資格のための科目

社会調査協会は、専門社会調査士の資格を取得するために、下記の（1）～（4）を求めています。

（1）社会調査士資格を有すること

（社会調査士資格を有していない場合でも、専門社会調査士資格を取得する際に同時に申請することも可能です。
その場合、E／Ｆは選択制、Gは不要。社会調査士については、社会学部の履修要項を参照してください。）

（2）専門社会調査士科目を設置している大学院で、標準カリキュラムＨ～Ｊに対応した科目を履修し単位を取得していること

（3）社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること

（4）修士（博士前期）課程を修了すること

社会調査協会は、H～Jの科目群を、専門社会調査士の標準カリキュラムとして定めており、本研究科社会学専攻で開講している科目はそれぞれに次のように対応しています。

＜専門社会調査士のために必要な履修科目＞

専門社会調査士の資格は、本研究科在学中に下記の科目群から各一科目以上を履修・合格し、上記の条件を満たした上で課程修了時に申請することで取得できます。資格取得を希望する人は、在学中、計画的に必要な科目を履修するようにしてください。また、認定科目は年々変化しますので、最新の情報は社会調査協会のHPで確認してください。

（https://jasr.or.jp/）

【Ｈ】調査企画・設計に関する演習（実習）科目

（2024年度）

社会学特殊研究演習Ⅳ

（2023年度）

社会学研究法

（2022年度）

社会学特殊研究演習Ⅳ、社会学研究法

【Ｉ】多変量解析に関する演習（実習）科目

（2024年度）

社会人間学研究、社会学特殊研究演習Ⅱ、社会学特殊研究演習Ⅶ

（2023年度）

家族問題研究、社会学特殊研究演習Ⅰ、社会学特殊研究演習Ⅶ

（2022年度）

社会人間学研究、社会学特殊研究演習Ⅱ

【Ｊ】質的調査法に関する演習（実習）科目

（2024年度）

フィールドワーク研究、比較社会研究

（2023年度）

フィールドワーク研究、地域社会研究、社会学特殊研究演習Ⅷ

（2022年度）

フィールドワーク研究、国際比較研究、比較社会研究、地域社会研究

3. 専門社会調査士資格の申請について

なお、社会調査協会への申請手続きについては、適時お知らせいたしますので、社会学研究科の掲示板やHPに注意してください。また、社会学専攻の教員に尋ねてください。

産業関係学専攻

開講科目一覧表

科目群	履修年次	登録コード 科目コード	登録コード クラスコード	科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	履修条件など
必修科目	1～	30950001		産業関係学研究	2	上田　眞士	秋学期	集中※	可	
	1～	30950002		労働市場研究	2	梶谷　真也	春学期	集中※	可	
	1～	30950081	001	産業関係学演習Ⅰ　①	2	梶谷　真也	秋学期	2	不可	
			002	〃　②	2	松山　一紀	秋学期	2	不可	
			003	〃　③	2	上田　眞士	秋学期	2	不可	
			004	〃　④	2	樋口　純平	秋学期	2	不可	
			005	〃　⑤	2	阿形　健司	秋学期	2	不可	
			006	〃　⑥	2	休講				
			007	〃　⑦	2	寺井　基博	秋学期	2	不可	
			008	〃　⑧	2	浦坂　純子	秋学期	2	不可	
	2～	30950082	001	産業関係学演習ⅡA　①	2	休講				
			002	〃　②	2	松山　一紀	春学期	2	不可	
			003	〃　③	2	休講				
			004	〃　④	2	休講				
			005	〃　⑤	2	休講				
			006	〃　⑥	2	休講				
			007	〃　⑦	2	寺井　基博	春学期	2	不可	
			008	〃　⑧	2	休講				
	2～	30950083	001	産業関係学演習ⅡB　①	2	休講				
			002	〃　②	2	松山　一紀	秋学期	2	不可	
			003	〃　③	2	休講				
			004	〃　④	2	休講				
			005	〃　⑤	2	休講				
			006	〃　⑥	2	休講				
			007	〃　⑦	2	寺井　基博	秋学期	2	不可	
			008	〃　⑧	2	休講				
	2～	30950084		リサーチ・セミナー	2	上田　眞士 阿形　健司 樋口　純平 松山　一紀 三山　雅子 寺井　基博 梶谷　真也 浦坂　純子	通年	1	不可	
選択科目	1～	30950021		労働調査研究Ⅱ	2	樋口　純平 寺井　基博 上田　眞士	秋学期	集中※	可	
	1～	30950022		労働統計研究Ⅱ	2	八木　匡	春学期	2	不可	
	1～	30950023		産業組織研究	2	中道　一心	秋学期	2	可	
	1～	30950024		労働安全衛生研究	2	藤野　ゆき	秋学期	2	可	
	1～	30950025		人的資源管理研究	2	休講				
	1～	30950026		非典型雇用研究	2	三山　雅子	春学期	集中※	可	

科目群	履修年次	登録ｺｰﾄﾞ 科目ｺｰﾄﾞ	登録ｺｰﾄﾞ ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期 間	週時間	聴講区分	履修条件など
選択科目	1～	30950027		労働経済研究	2	休講				
	1～	30950028		雇用政策研究	2	寺井　基博	春学期	2	可	
	1～	30950029		産業社会学研究	2	阿形　健司	秋学期	2	可	
	1～	30950030		教育社会学研究	2	休講				
	1～	30950031		産業心理学研究	2	松山　一紀	春学期	2	可	
	1～	30950032		社会政策研究	2	杉田　菜穂	秋学期	集中※	可	
	1～	30950033		国際産業関係学研究	2	樋口　純平	春学期	2	可	
	2～	30950034		産業関係フィールドワーク	2	浦坂　純子	春学期	集中※	不可	
	1～	30950035		労働調査研究Ⅰ	2	森山　智彦	春学期	集中※	可	
	1～	30950036		労働統計研究Ⅰ	2	休講				
	2～	30950099		論　文			通年		不可	

※集中講義科目の講義日程等は社会学部・社会学研究科HPを参照

履修方法

指導教員の指示により、必修科目12単位、選択科目、他専攻・他研究科の科目及び高等研究教育院設置科目（アドバンスト・リベラルアーツ科目群のみ）から18単位以上、合計30単位以上を履修すること。
なお、第2年次に「論文」を履修すること。

必修科目	選択科目・ 他専攻科目・ 他研究科科目・ 高等研究教育院設置科目	合計
12単位	18単位以上	**30単位以上**

履修上の注意

＊1年次秋学期に産業関係学演習Ⅰ、2年次に産業関係学演習ⅡA、産業関係学演習ⅡB、リサーチ・セミナー（各2単位）　を履修すること。

＊産業関係学演習Ⅰ、ⅡA、ⅡBは原則として同一担当者のクラスを登録すること。

修士論文提出までの主な予定

第2年次において、リサーチ・セミナーを中心におおむね以下のような進捗を指導

4月	テーマの確定
	問題意識の鮮明化
	先行研究文献のリストアップ
	週単位での研究計画の立案
5・6月	論文の章別構成
	論文の中核部分の部分的執筆
7月	この時点までに、書けるだけ書いた中間的論文（1）の発表
	夏期休暇中の研究計画の立案
8・9月	夏期研究計画に基づく研究
10月	夏期研究をふまえた中間的論文（2）の発表
	秋期の研究計画の立案
12月	ほぼ完成論文の発表
年末年始	部分的修正

博士課程（後期課程）

【　】内は関連の規則等を表す

１．修業年限と在学年限 …… 【同志社大学大学院学則 第４条】

博士課程の後期課程の標準修業年限は３年です。**６年**を超えて在学することはできません。

２．課程修了の要件 ……【同志社大学大学院学則 第７条ほか】

博士学位を取得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

（１） 博士課程に５年（博士課程の前期課程または修士課程を修了した学生は、当該課程の２年の在学期間を含みます）以上在学すること。（休学期間を除く）

（２） 所定の単位を修得すること。

（３） 必要な研究指導を受けたうえで、学位論文を提出すること。

（４） 学位論文を中心とし、これに関連ある分野について行われる試験に合格すること。

（５） 課程修了のために必要な外国語によく通じていること。

※（２）の要件は、2018 年度以降生は全専攻に該当／2017 年度以前生は教育文化学専攻のみ該当。

３．履修方法・修了必要単位数

各専攻の授業科目、履修方法等は、『大学院履修要項』 の設置・開講科目等をご覧ください。

４．学位論文審査および課程修了の認定 …… 【同志社大学学位規程 第８条ほか】

博士学位論文は、在学期間中に提出することになります。後出の「博士学位取得のプロセス」、および各専攻の指示に従ってください。なお、課程修了の認定は、研究科長会において行います。

学位は学位授与式の日付で授与されます。

在学中に博士学位論文を提出できない場合は指導教員に相談してください。

５．学位の名称 …… 【同志社大学大学院学則 第10条】

課程修了の認定を得た学生に授与される学位は次のとおりです。

博士（社会福祉学）	Doctor of Philosophy in Social Welfare
博士（メディア学）	Doctor of Philosophy in Media Studies
博士（教育文化学）	Doctor of Philosophy in Education and Culture
博士（社会学）	Doctor of Philosophy in Sociology
博士（産業関係学）	Doctor of Philosophy in Industrial Relations

学位は、「博士（社会福祉学）（同志社大学）」のように表記してください。

6．博士学位取得のプロセス

社会学研究科で博士学位を取得するための各専攻共通のプロセスは次のとおりです。専攻からのガイダンスに従って、各自の研究計画を組み立ててください。

第１年次	年度始め	「博士課程（後期課程）研究計画書」の提出 専攻会議にて指導教員・副指導教員の決定
	各学期中	研究指導科目の履修（特殊研究、演習、総合演習など） 研究成果の公表（論文発表、学会発表など）
	年度末	「研究成果報告書」の提出
第２年次	年度始め	「博士課程（後期課程）研究計画書」の提出
	各学期中	研究指導科目の履修（特殊研究、演習、総合演習など） 研究成果の公表（論文発表、学会発表など）
	年度末	「研究成果報告書」の提出 「博士学位論文提出予備審査申請書」の提出 ※第３年次以降に予備審査の申請を行う場合は、 春学期：６月中旬　秋学期：12月上旬　までに、 予備審査の申請をすることができる。なお、博士学位論文提出をする前の学期末までに予備審査に合格しておくこと。 ※教育文化学専攻については、第２年次１月時点の審査を第１次審査とし、第３年次の７月には博士候補生第２次審査を行う。
第３年次以上	年度始め	博士学位論文提出予備審査合否判定（社会学研究科委員会） 「博士学位論文作成計画書」の提出
	各学期中	研究指導科目の履修（特殊研究、演習、総合演習など） 研究成果の公表（論文発表、学会発表など）
	９月下旬	博士学位論文提出条件の充足（後出の８項参照）
	11～３月	博士学位論文・審査書類の提出 ※博士学位論文提出後の流れは 38 頁のフローチャート参照
	年度末	「博士学位論文作成進捗状況報告書」の提出

博士学位論文提出後（博士学位論文審査）　【３月学位授与の場合】

11～１月上旬	論文査読、総合試験
１月中旬～３月上旬	博士学位論文総合審査（社会学研究科委員会、研究科長会）
３月中～下旬	学位授与式

博士学位論文提出後（博士学位論文審査）　【９月学位授与の場合】

５～７月上旬	論文査読、総合試験
７月中旬～９月上旬	博士学位論文総合審査（社会学研究科委員会、研究科長会）
９月中～下旬	学位授与式

７．博士学位論文提出予備審査の申請

２年間修学し、かつ各専攻が定める次の基準を満たした者に対し、学生からの申請にもとづき博士学位論文提出予備審査を行います。

（注）・休学している学期は、予備審査を実施することはできません。

・２年間の修学期間には、休学期間を含みません。

・教育文化学専攻につきましては博士候補生試験を実施しますので、別の手続となります。専攻に確認してください。

・予備審査申請期日

春学期に予備審査を実施　←　当該年度の６月中旬までに申請

秋学期に予備審査を実施　←　当該年度の12月上旬までに申請

・予備審査を実施する学期に博士学位論文を提出することはできません。（日程の詳細については大学院掲示板・ホームページで周知しますので、必ず確認してください）

・各学期の申請締切日以降に提出した場合は、翌学期の審査となります。

社会福祉学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を２篇以上（査読論文でなくてもよい）発表し、かつ学会発表を２回以上（地方学会、学内学会を含む）行うこと。

メディア学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文３篇以上を発表すること（査読論文を含む）。中間発表については、１～３年次に毎年春・秋のどちらかに１回行うこと。詳細は指導教授に尋ねること。

教育文化学専攻

学会発表２回以上を条件に博士候補生審査に合格すること。第１次審査では、教育文化学の専門試験（２年次の１月に受験）を、第２次審査では英語試験（３年次の７月に受験を原則とする）を課す。

社会学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を１篇以上（査読論文でなくてもよい）発表し、かつ学会発表を１回以上（地方学会を含む）、ならびに博士論文構想発表会で報告を１回以上行うこと。

産業関係学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を１篇以上（査読論文でなくてもよい）発表し、かつ学会発表を２回以上（地方学会を含む）行うこと。

8．博士学位論文提出の条件

博士学位論文を提出するためには、博士学位論文提出予備審査に合格するとともに、次に定める条件を満たしていなければなりません。なお、この条件はそれぞれ博士課程前期課程からの論文や研究発表を含むものです。

社会福祉学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を３篇以上（査読論文１篇以上を含む）発表し、かつ学会発表を２回以上行うこと。

メディア学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を３篇以上（査読論文１篇以上を含む）発表すること。中間発表については、４ 年次以上においては発表の必要性も含めて指導教員とよく相談すること。

これは博士課程満期退学の前提条件でもある。詳細は指導教授に尋ねること。

教育文化学専攻

博士候補生審査に合格すると共に、学術雑誌に論文を３篇以上（査読論文１篇を含む）発表し、かつ学会発表を３回以上（全国大会を１回以上含む）行うこと。

社会学専攻

① 活字化された論文３本以上（単著、共著ともに可）。ただし、その中にレフリー制度を持つ専門誌に掲載されたもの１本（単著かファースト・オーサー）を含むこと。

② 学会発表３回（少なくとも「全国大会」における報告１回を含むこと）。

③ 在学中に社会学専攻の博士論文構想発表会（年１回程度開催）において、少なくとも２回の報告をしていること。

産業関係学専攻

当該研究分野において、学術雑誌に論文を３篇以上（査読論文１篇以上を含む）発表し、かつ学会発表を３回以上（全国大会を１回以上含む）行うこと。

9．同志社大学大学院社会学研究科　博士学位論文の審査方法と体制

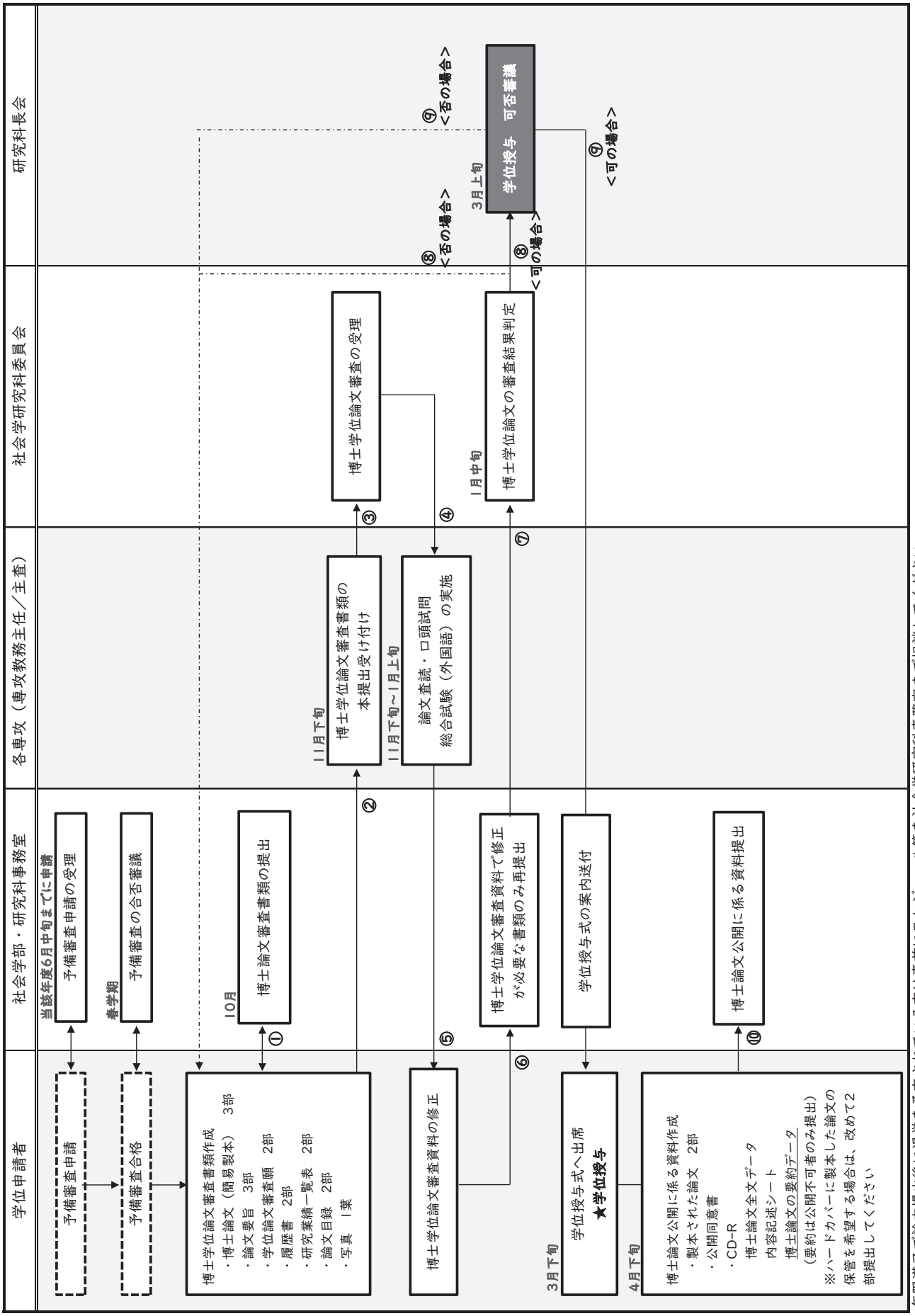
審査方法 ： 論文査読・口頭試問（公開学術講演会）、総合試験（外国語（英語））にて審査

審査体制 ： 主査１名・副査２名

10．同志社大学大学院社会学研究科　博士学位論文審査基準

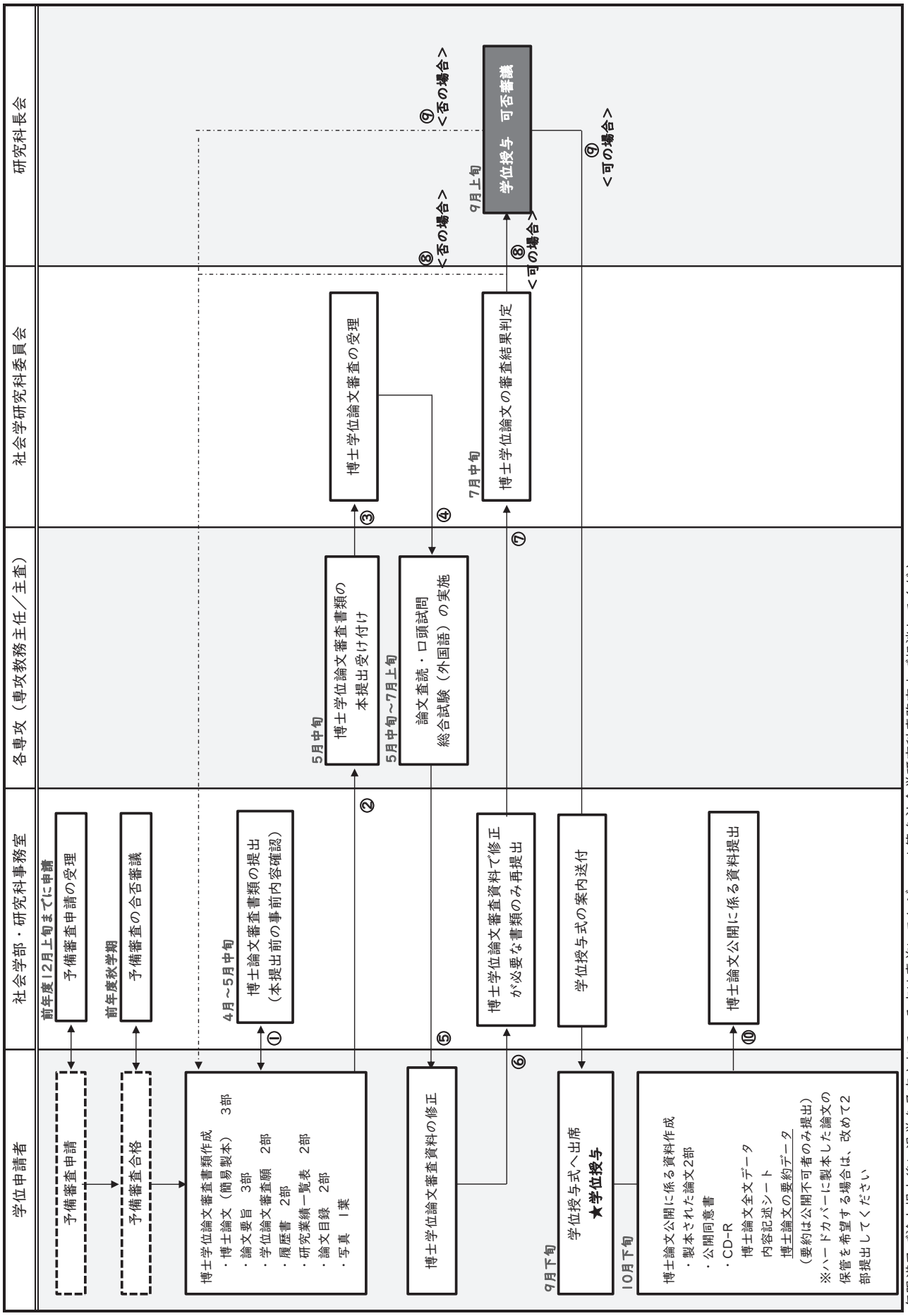
1．問題意識が明確で、課題設定が適切であること
2．先行研究を系統的に、かつ適切に検討・吟味していること
3．研究方法が研究課題に照らして妥当であること
4．論理展開が首尾一貫していること
5．記述や論証が十分に説得的であること
6．引用作法を遵守し、研究倫理に配慮していること
7．内容に高度な独創性があること
8．学術的もしくは社会的貢献が学界で認められること

社会学研究科　博士学位論文申請手続フローチャート（秋学期：３月学位授与）



年限満了で論文提出後に退学を予定されている方は事前にスケジュール等を社会学研究科事務室まで相談してください。

社会学研究科　博士学位論文申請手続フローチャート（春学期：９月学位授与）



年限満了で論文提出後に退学を予定されている方は事前にスケジュール等を社会学研究科事務室まで相談してください。

社会学研究科　博士学位論文提出要領 【課程博士】

（1）使用言語

論文は、原則として日本語で作成しなければならない。ただし、指導教員が日本語以外の言語で作成する必要性を認めた場合、博士学位論文提出予備審査までに研究科委員会の了承を得たうえで、日本語以外の言語による論文作成が認められる。

（2）論文枚数等

①日本語の場合（詳細については指導教員の指示を受けること。）

社会福祉学専攻	本文 120,000 字以上。 原則としてワープロを使用。A4 判用紙に横書。 1 ページ 40 字×30 行とする。 本専攻には「専攻内査読制度」があるので、秋学期末（3 月）学位取得の場合は 7 月中旬、春学期末（9 月）学位取得（4 年目以降）の場合は 1 月中旬を目処に、論文を主査に提出すること。具体的な提出日や審査スケジュールについては、主査と事前に相談しておくこと。 文献の引用・参照方法等は、日本社会福祉学会の学会誌の執筆要領による。
メディア学専攻	本文 120,000 字以上とし、資料、参考文献等はこれに含まない。 ワープロを使用。A4 判用紙に横書。 1 ページ 40 字×30 行とする。執筆の詳細および提出資格については専攻内執筆要領にもとづく。
教育文化学専攻	120,000 字程度。A4 判用紙。 原則としてワープロを使用。
社 会 学 専 攻	本文 120,000 字以上（1 ページ 1,200 字（40 字×30 行）で 100 枚以上） ワープロを使用。A4 判用紙に横書。 社会学専攻の執筆要領を参照のこと。
産業関係学専攻	本文 120,000 字以上。ワープロを使用。A4 判用紙に横書。 1 ページ 40 字×36 行とする。

②日本語以外の言語の場合は、指導教員からの指示による。

（3）提出方法

指導教員を通じて、所定の書式を揃え専攻教務主任に提出する。なお、専攻内における審議の後、指導教員の指示により、再度提出を求める場合がある。

（4）提出時期

①在学中の秋学期学位授与日(3月20日頃)に学位授与の場合 → 前年11月末日を目途とする。

②在学中の春学期学位授与日(9月23日頃)に学位授与の場合 → 当該年度の5月中旬を目途とする。

③3年以上在学で論文提出後に当該学期末で退学する場合 → 各学期の末日まで。(学位授与日は退学日に遡る。授与式は、9月末までに提出＝3月、3月末までに提出＝翌年度9月)

（5）各専攻が定める博士学位論文提出の条件を満たしていること。

※博士課程（後期課程）において 3 年以上在学し退学した者が博士学位論文を提出しようとする場合は、入学年度により取り扱いが異なる。

【2015 年度以前生】
3 年以上在学して予備審査に合格のうえ退学した者は、退学日から 3 年以内であれば課程博士学位論文として提出することができる。ただし、審査料が必要。提出は退学後 3 年以内の各学期末までとする。

【2016 年度以降生】
在学中に提出した場合のみ、課程博士論文となる。
2016 年度以降に博士課程に入学し、同課程において 3 年以上在学して必要な研究指導を受けた者が次のいずれかの場合に該当する時は、博士学位論文の審査のための在籍（論文審査在籍）を希望することができる。論文審査在籍は、在学扱いとなり、修業年限に含まれる。

①所定の研究指導を受け終え、予備審査に合格の上、引き続き、博士学位論文の審査のために在学する場合
②退学日から 3 年以内の者で、博士学位論文の審査を請求するために再入学する場合

論文審査在籍の期間は、論文審査在籍料を納入すること。他の学費を納入する必要はないが、論文審査在籍中に、学部または大学院の科目を履修することはできない。

→博士学位論文の提出の目途が立ち、論文審査在籍を希望する場合は、社会学研究科事務室まで相談してください。

博士後期課程の提出書式（見本）※提出締切は掲示で確認してください。

■1 年目　（左の計画書は年度始めに、右の報告書は年度末に提出）

年　月　日 提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
年度　研究計画書（1年目）

専攻		ID		氏 名	

1．研究題目

2．研究概要（研究の意義，先行研究，研究方法などを記載してください。）

3．研究計画（博士学位論文提出予備申請までの年次計画を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊4月28日までに社会学研究科事務室へ提出してください（指導教授印は不要）。

指導教授印

年　月　日 提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
年度　研究成果報告書（1年目）

専攻		ID		氏 名	

1．研究題目

2．研究概要（研究課題，研究構想，研究方法などの設定，研究計画遂行状況を記載してください。）

3．研究の発表（研究発表状況を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊指導教員の確認印を受けて、3月31日までに社会学研究科事務室へ提出してください。

指導教授印

■2 年目　（左の計画書は年度始めに、右の報告書は年度末に提出）

年　月　日 提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
年度　研究計画書（2年目）

専攻		ID		氏 名	

1．研究題目

2．博士論文の構想（論点，展開方法などを記載してください。）

3．研究計画（博士論文提出予備審査申請までの年次計画を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊指導教員の確認印を受けて、4月28日までに社会学研究科事務室へ提出してください。

指導教授印

年　月　日 提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
研究成果報告書（2年目）

専攻		ID		氏 名	

1．研究題目

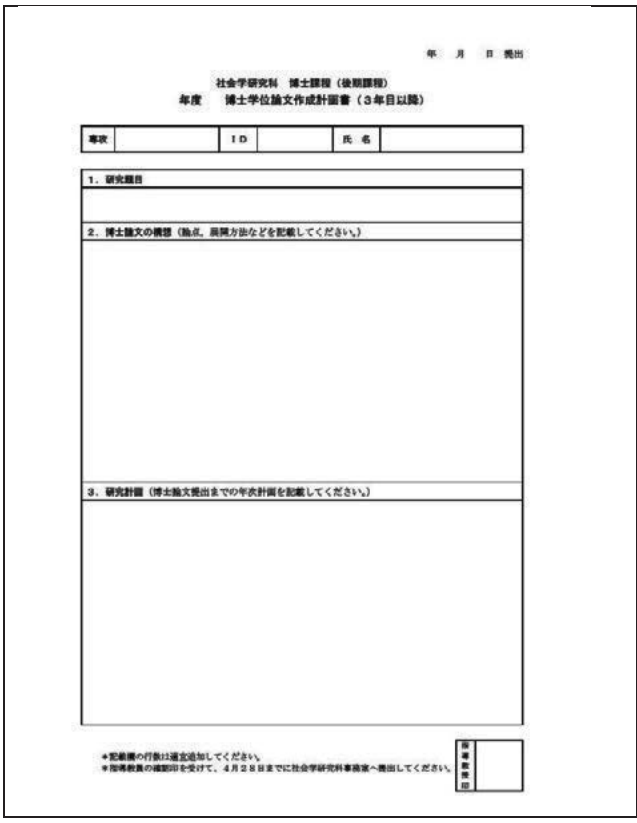
2．博士論文の構想（論点の確認または変更，具体的な進捗状況などを記載してください。）

3．研究の発表（研究発表状況を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊指導教員の確認印を受けて、3月31日までに社会学研究科事務室へ提出してください。

指導教授印

■3 年目以降　（左の計画書は年度始めに、右の報告書は年度末に提出）



年　月　日　提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
年度　博士学位論文作成計画書（3年目以降）

専攻		ＩＤ		氏　名	

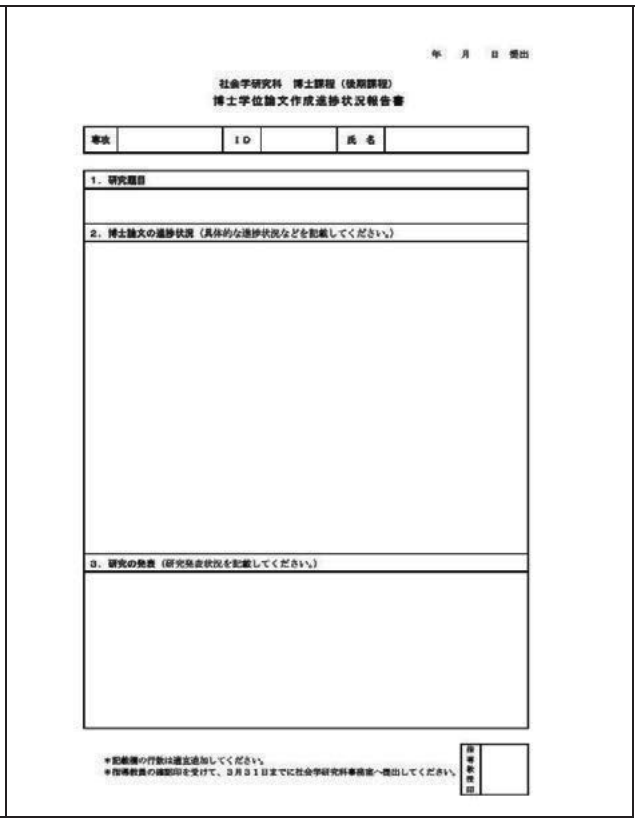
1．研究題目

2．博士論文の構想（論点、展開方法などを記載してください。）

3．研究計画（博士論文提出までの年次計画を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊指導教員の確認印を受けて、4月28日までに社会学研究科事務室へ提出してください。

指導教授印



年　月　日　提出

社会学研究科　博士課程（後期課程）
博士学位論文作成進捗状況報告書

専攻		ＩＤ		氏　名	

1．研究題目

2．博士論文の進捗状況（具体的な進捗状況などを記載してください。）

3．研究の発表（研究発表状況を記載してください。）

＊記載欄の行数は適宜追加してください。
＊指導教員の確認印を受けて、3月31日までに社会学研究科事務室へ提出してください。

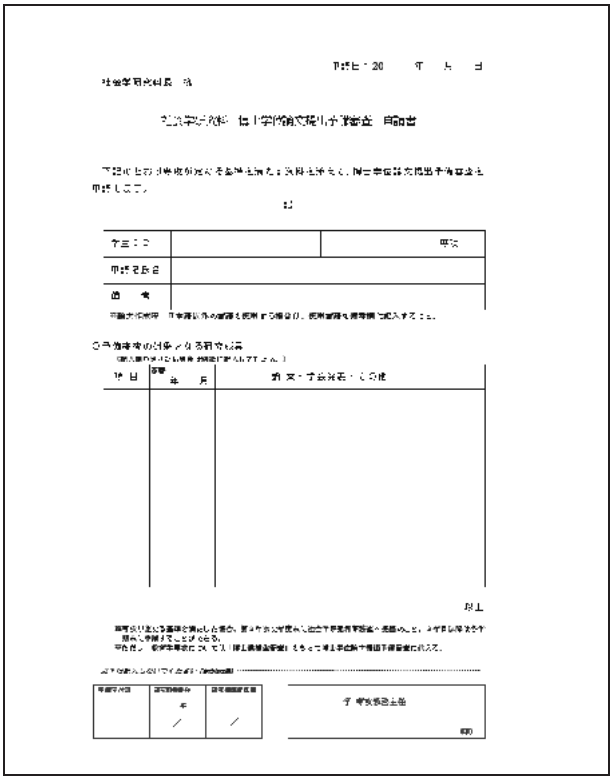
指導教授印

※休学する場合の計画書・報告書

(1)年間休学の際は、その年度について提出不要。

(2)**半期**（春または秋学期）でも在学する際は、その期間（年度）について**提出必要**。

■博士学位論文提出予備審査 申請書　（2 年目の最終学期以降に各自提出。教育文化学は除く）



書式リスト：
「研究計画書（1 年目）」
「研究成果報告書（1 年目）」
「研究計画書（2 年目）」
「研究成果報告書（2 年目）」
「博士学位論文作成計画書（3 年目以降）」
「博士学位論文作成進捗状況報告書」
「博士学位論文提出予備審査 申請書」

＊様式は社会学研究科事務室で配付します。各自、電子メールで社会学研究科事務室あて［ｱﾄﾞﾚｽ　ji-shajm@mail.doshisha.ac.jp］に学生 ID、氏名と必要な書式データを明記して請求してください（プリントアウトの用紙を希望する場合は窓口へ申し出てください）。

社会福祉学専攻（2018年度以降生）

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ					
研究指導科目	1～	40910101		社会福祉学特殊研究Ⅰ	休講			
	1～	40910102		社会福祉学特殊研究Ⅱ	木原　活信	通年	2	
	1～	40910103		社会福祉学特殊研究Ⅲ	永田　祐	通年	2	
	1～	40910104		社会福祉学特殊研究Ⅳ	休講			
	1～	40910105		社会福祉学特殊研究Ⅴ	小山　隆	通年	2	
	1～	40910106		社会福祉学特殊研究Ⅵ	休講			
	1～	40910107		社会福祉学特殊研究Ⅶ	空閑　浩人	通年	2	
	3～			論文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ						
授業科目	1～	40910001		社会保障論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910002		社会保障論セミナーⅡ	4	休講			
	1～	40910003		福祉思想・福祉哲学セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910004		福祉思想・福祉哲学セミナーⅡ	4	木原　活信	通年	2	
	1～	40910005		ソーシャルワーク論セミナーＡⅠ	4	休講			
	1～	40910006		ソーシャルワーク論セミナーＡⅡ	4	休講			
	1～	40910007		高齢者福祉論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910008		高齢者福祉論セミナーⅡ	4	休講			
	1～	40910009		ソーシャルワーク論セミナーＢⅠ	4	休講			
	1～	40910010		ソーシャルワーク論セミナーＢⅡ	4	小山　隆	通年	2	
	1～	40910011		地域福祉論セミナーⅠ	4	休講			
	1～	40910012		地域福祉論セミナーⅡ	4	永田　祐	通年	2	
	1～	40910013		ソーシャルワーク論セミナーＣⅠ	4	空閑　浩人	通年	2	
	1～	40910014		ソーシャルワーク論セミナーＣⅡ	4	休講			
	1～	40911001		社会福祉学総合演習	2	永田　祐 木原　活信 空閑　浩人 小山　隆 鈴木　良	通年	集中※	

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「社会福祉学総合演習」2単位を含め、合計10単位以上を履修すること。

社会福祉学専攻（2017年度以前生）

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ					
研究指導科目	1～	40910101		社会福祉学特殊研究Ⅰ	休講			
	1～	40910102		社会福祉学特殊研究Ⅱ	木原　活信	通年	2	
	1～	40910103		社会福祉学特殊研究Ⅲ	永田　祐	通年	2	
	1～	40910104		社会福祉学特殊研究Ⅳ	休講			
	1～	40910105		社会福祉学特殊研究Ⅴ	小山　隆	通年	2	
	1～	40910106		社会福祉学特殊研究Ⅵ	休講			
	1～	40910107		社会福祉学特殊研究Ⅶ	空閑　浩人	通年	2	
	3～			論文				

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。

メディア学専攻

科目群	履修年次	登録コード 科目ｺｰﾄﾞ	登録コード ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
研究指導科目	1～	40920101		メディア学特殊研究ⅠA	休講			
	1～	40920102		メディア学特殊研究ⅠB	伊藤　高史	通年	2	
	1～	40920103		メディア学特殊研究ⅡA	佐伯　順子	通年	2	
	1～	40920104		メディア学特殊研究ⅡB	池田　謙一	通年	2	
	1～	40920105		メディア学特殊研究ⅢA	河崎　吉紀	通年	2	
	1～	40920106		メディア学特殊研究ⅢB	休講			
	1～	40920107		メディア学特殊研究ⅣA	竹内　幸絵	通年	2	
	1～	40920108		メディア学特殊研究ⅣB	勝野　宏史	通年	2	
	3～			論文				

科目群	履修年次	登録コード 科目ｺｰﾄﾞ	登録コード ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
授業科目	1～	40920001		表象メディア論特殊講義	4	休講			
	1～	40920002		現代文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40920003		情報環境論特殊講義	4	休講			
	1～	40920004		社会ネットワーク論特殊講義	4	池田　謙一	通年	2	
	1～	40920005		メディア社会論特殊講義	4	休講			
	1～	40920006		メディアとジェンダー論特殊講義	4	佐伯　順子	通年	2	
	1～	40920007		ジャーナリズム論特殊講義	4	休講			
	1～	40920008		調査報道論特殊講義	4	休講			
	1～	40920009		メディア史特殊講義	4	河崎　吉紀	通年	2	
	1～	40920010		ジャーナリズム史特殊講義	4	休講			
	1～	40920011		マス・コミュニケーション論特殊講義	4	休講			
	1～	40920012		マス・メディア論特殊講義	4	伊藤　高史	通年	2	
	1～	40920013		コミュニケーション論特殊講義	4	休講			
	1～	40920014		現代社会論特殊講義	4	休講			
	1～	40920015		広報学特殊講義	4	竹内　幸絵	通年	2	
	1～	40920016		メディア人類学特殊講義	4	勝野　宏史	通年	2	
	1～	40921001		リサーチ・セミナーⅠ	2	竹内　幸絵 池田　謙一 佐伯　順子 河崎　吉紀 伊藤　高史 勝野　宏史	通年	集中※	
	2～	40921002		リサーチ・セミナーⅡ	2	竹内　幸絵 池田　謙一 佐伯　順子 河崎　吉紀 伊藤　高史 勝野　宏史	通年	集中※	リサーチ・セミナーⅠを履修済であること
	3～	40921003		リサーチ・セミナーⅢ	2	竹内　幸絵 池田　謙一 佐伯　順子 河崎　吉紀 伊藤　高史 勝野　宏史	通年	集中※	リサーチ・セミナーⅡを履修済であること

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から「リサーチ・セミナーⅠ」「リサーチ・セミナーⅡ」「リサーチ・セミナーⅢ」各2単位を含め、合計18単位以上を履修すること。

教育文化学専攻

科目群	履修年次	登録コード 科目ｺｰﾄﾞ	登録コード ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名		担当者	期間	週時間	履修条件など
研究指導科目	1～	40960101		教育文化学特殊研究Ⅰ		吉田　亮	通年	2	
	1～	40960102		教育文化学特殊研究Ⅱ		兒島　明	通年	2	
	1～	40960103		教育文化学特殊研究Ⅲ		越水　雄二	通年	2	
	1～	40960104		教育文化学特殊研究Ⅳ		中川　吉晴	通年	2	
	1～	40960105		教育文化学特殊研究Ⅴ		山田　礼子	通年	2	
	1～	40960106		教育文化学特殊研究Ⅵ		休講			
	1～	40960107		教育文化学特殊研究Ⅶ		休講			
	1～	40960108		教育文化学特殊研究Ⅷ		休講			
	3～			論　　文					

科目群	履修年次	登録コード 科目ｺｰﾄﾞ	登録コード ｸﾗｽｺｰﾄﾞ	科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
授業科目	1～	40960021		キリスト教人間形成論特殊講義	4	休講			
	1～	40960022		キリスト教教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960026		日本教育文化論特殊講義	4	兒島　明	通年	2	
	1～	40960027		西洋教育文化論特殊講義	4	越水　雄二	通年	2	
	1～	40960025		異文化間心理教育論特殊講義	4	休講			
	1～	40960028		アジア教育文化論特殊講義	4	南部　広孝	通年	集中※	
	1～	40960031		移民教育文化論特殊講義	4	吉田　亮	通年	2	
	1～	40960032		比較教育文化論特殊講義	4	山田　礼子	通年	2	
	1～	40960041		学校教育文化論特殊講義	4	休講			
	1～	40960062		生涯学習文化論特殊講義	4	中川　吉晴	通年	2	
	1～	40960063		教育文化学調査法特殊講義	4	休講			
	1～	40960064		Doctoral Lectures in Globalization, Education and Culture	4	W.R.STEVENSON Ⅲ	通年	2	
	1～	40960065		教育文化学特殊講義Ⅰ	4	休講			
	1～	40960066		教育文化学特殊講義Ⅱ	4	休講			
	1～	40960067		教育文化学特殊講義Ⅲ	4	休講			

履修方法

指導教員の指示により、特殊研究のいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。授業科目は、合計16単位以上を 履修すること。

社会学専攻（2018年度以降生）

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ					
研究指導科目	1～	40940201		社会学特殊研究Ⅰ	小林　久高	通年	2	
	1～	40940202		社会学特殊研究Ⅱ	立木　茂雄	通年	2	
	1～	40940203		社会学特殊研究Ⅲ	尾嶋　史章	通年	2	
	1～	40940204		社会学特殊研究Ⅳ	鵜飼　孝造	通年	2	
	1～	40940205		社会学特殊研究Ⅴ	休講			
	1～	40940206		社会学特殊研究Ⅵ	藤本　昌代	通年	2	
	1～	40940207		社会学特殊研究Ⅶ	板垣　竜太	通年	2	
	1～	40940208		社会学特殊研究Ⅷ	休講			
	3～			論文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ						
授業科目	1～	40940001		社会心理学特殊講義	4	小林　久高	通年	2	
	1～	40940002		政治社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940003		家族社会学特殊講義	4	立木　茂雄	通年	2	
	1～	40940004		災害復興過程論特殊講義	4	休講			
	1～	40940005		教育社会学特殊講義	4	尾嶋　史章	通年	2	
	1～	40940006		社会階層論特殊講義	4	休講			
	1～	40940007		社会学理論特殊講義	4	鵜飼　孝造	通年	2	
	1～	40940008		社会ネットワーク分析論特殊講義	4	休講			
	1～	40940009		社会人類学特殊講義	4	板垣　竜太	通年	2	
	1～	40940010		産業・労働社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940011		職業社会学特殊講義	4	藤本　昌代	通年	2	
	1～	40940012		国際社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40940013		エリアスタディーズ特殊講義	4	休講			
	1～	40940014		多文化共生論特殊講義	4	森　千香子	春学期	4	
	1～	40941001		アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ	1	板垣　竜太 立木　茂雄 尾嶋　史章 小林　久高 鵜飼　孝造 藤本　昌代 森　千香子（春学期のみ）	通年	集中※	
	2～	40941002		アドバンスト・リサーチ・セミナーⅡ	1	板垣　竜太 立木　茂雄 尾嶋　史章 小林　久高 鵜飼　孝造 藤本　昌代 森　千香子（春学期のみ）	通年	集中※	Ⅰを履修済であること

※集中講義科目の講義日程等は指導教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅠ」「アドバンスト・リサーチ・セミナーⅡ」　各1単位を含め、合計14単位以上を履修すること。

社会学専攻（2017年度以前生）

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ					
研究指導科目	1～	40940201		社会学特殊研究Ⅰ	小林　久高	通年	2	
	1～	40940202		社会学特殊研究Ⅱ	立木　茂雄	通年	2	
	1～	40940203		社会学特殊研究Ⅲ	尾嶋　史章	通年	2	
	1～	40940204		社会学特殊研究Ⅳ	鵜飼　孝造	通年	2	
	1～	40940205		社会学特殊研究Ⅴ	休講			
	1～	40940206		社会学特殊研究Ⅵ	藤本　昌代	通年	2	
	1～	40940207		社会学特殊研究Ⅶ	板垣　竜太	通年	2	
	1～	40940208		社会学特殊研究Ⅷ	休講			
	3～			論文				

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。

産業関係学専攻

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ					
研究指導科目	1～	40950101		産業関係学特殊研究Ⅰ	三山　雅子	通年	2	
	1～	40950102		産業関係学特殊研究Ⅱ	松山　一紀	通年	2	
	1～	40950103		産業関係学特殊研究Ⅲ	上田　眞士	通年	2	
	1～	40950104		産業関係学特殊研究Ⅳ	梶谷　真也	通年	2	
	1～	40950105		産業関係学特殊研究Ⅴ	浦坂　純子	通年	2	
	1～	40950106		産業関係学特殊研究Ⅵ	阿形　健司	通年	2	
	3～			論文				

科目群	履修年次	登録コード		科　目　名	単位	担当者	期間	週時間	履修条件など
		科目ｺｰﾄﾞ	ｸﾗｽｺｰﾄﾞ						
授業科目	1～	40950001		非典型雇用論特殊講義	4	三山　雅子	通年	2	
	1～	40950002		労働調査論特殊講義	4	休講			
	1～	40950003		産業関係学特殊講義	4	休講			
	1～	40950004		人的資源管理論特殊講義	4	上田　眞士	通年	2	
	1～	40950005		労働市場論特殊講義	4	休講			
	1～	40950006		労働経済学特殊講義	4	梶谷　真也	通年	2	
	1～	40950007		労働統計論特殊講義	4	休講			
	1～	40950008		キャリア形成論特殊講義	4	浦坂　純子	通年	2	
	1～	40950009		教育社会学特殊講義	4	阿形　健司	通年	2	
	1～	40950010		産業社会学特殊講義	4	休講			
	1～	40950011		産業心理学特殊講義	4	松山　一紀	通年	2	
	1～	40950012		組織行動学特殊講義	4	休講			
	3～	40951001		アドバンスト・リサーチ・セミナー	2	阿形　健司	通年	集中※	
	1～	40951002		アドバンスト・フィールドワーク	2	松山　一紀	通年	集中※	

※集中講義科目の講義日程等は担当教員に確認すること

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目のうちいずれかを一つ登録し、指導を受けなければならない。ただし、複数の研究指導科目を登録し、指導を受けることもできる。授業科目の中から、「アドバンスト・リサーチ・セミナー」2単位を含め、合計12単位以上を履修すること。

大学院 社会学研究科

登 録 要 領

■ 2024 年度　履修登録日程表（春学期）

※日程は変更になる場合があります。社会学部・社会学研究科 HP をご確認ください。

日　程		時　間	場　所
4 月 1 日（月）	入学式	13：30～	京田辺校地 ディヴィス記念館
4 月 2 日（火）	**学習指導**		
	社会福祉学専攻（新入生対象）	14：30～15：30	R208
	教育文化学専攻（新入生対象）	11：00～12：00	R210
	産業関係学専攻（新入生対象）	10：30～	R209
	履修登録相談　（全学生対象）		
	社会福祉学専攻	15：30～17：30	R208 または研究室
	教育文化学専攻	11：00～12：00	R210
	産業関係学専攻	10：30～	R209
4 月 3 日（水）	**学習指導**		
	メディア学専攻（新入生対象）	13：00～	R207
	社会学専攻（新入生対象）	10：00～12：00	R207
	履修登録相談　（全学生対象）		
	メディア学専攻	13：00～	R207
4 月 4 日（木）	**履修登録相談　（全学生対象）**		
	社会学専攻	10：00～12：00	板垣研究室
4 月 8 日（月） ～ 9 日（火）	履修科目登録	＜正規学生＞ 8 日(月) 10：00～9 日（火） 17：00	＜正規学生＞ DUET（WEB）
		＜特別学生＞ 9：00～11：30、12：30～17：00	＜特別学生＞ 社会学研究科事務室
4 月 11 日（木）	春学期 面接授業開始		
4 月 15 日（月） ～ 17 日（水）	登録科目確認	4 月 15 日(月) 9：30～ 各自、DUET（WEB）より登録科目確認表をダウンロードし、確認すること。	
	登録エラー修正受付	大学付与メールアドレスから下記メールアドレス宛にＥメールで相談すること。 shakaigakubu@mail.doshisha.ac.jp	
4 月 22 日（月） ～ 23 日（火）	履修科目確認	各自、DUET（WEB）より登録科目一覧を確認すること。	
5 月 8 日（水） ～ 9 日（木） 【予定】	履修中止	＜正規学生＞ 詳細時間は後日 HP 等にて周知する	＜正規学生＞ DUET（WEB）
		＜特別学生＞ 9：00～11：30、12：30～17：00	＜特別学生＞ 社会学研究科事務室

◇その他の行事等･･･定期健康診断、教職課程登録相談（大学院生対象）、ＴＡ研修会　ほか

■ 修学上の注意について

（１）学生証と学生 ID ……【大学院一般内規 学籍番号、学生証 の項参照】

学生証、通学証明書、ユーザーID 通知書（PIN コード※含む）を入学時に交付します。

学生証は本学大学院生として身分を証明するもので、在籍中は継続して使います。ただし学生証に記載の有効期限を越えて在学する場合は、新しい有効期限が記載された学生証を１年ごとに交付します。 修了、退学等により学籍がなくなった時は直ちに返納してください。 学生証は常に携帯し、汚損や紛失しないように注意してください。万一、学生証を紛失した場合は、速やかに本研究科事務室へ届け出て再交付（手数料 2,000 円）を受けてください。学内では試験、登録、各種申請手続き、図書館などを利用する際に**学生証の提示が必要**です。学生 ID は学生証表面に表示しています。ID 番号の構成は下表のとおりで、在籍する期間を通じて変わりません。

通学証明書は、**毎年、新年度に交付**します。

※PIN コードとは学生証に設定された暗証番号です。学生証とは別に保管してください。

例）　１　３　０９　２４　０１０１
　　①　②　③　④　⑤

① 学生種別　１：正規学生 、　２：特別学生
② 課程　３：前期課程 、　４：後期課程
③ 研究科ｺｰﾄﾞ　09：社会学研究科
④ 入学年度　西暦下２ケタ
⑤ 学籍番号

（２）大学からのお知らせについて

大学からのお知らせは DUET(WEB)メッセージ、本学・社会学研究科ホームページ及び掲示板で行いますので、必ず各自で連絡事項を確認してください（大学が交付したメールアドレス宛にも連絡する場合があります）。社会学研究科掲示板は、**臨光館４階の大学院共同研究室エリア内**にあります（掲示内容は１階の社会学研究科事務室で閲覧可）。

本学ホームページ：　https://www.doshisha.ac.jp/index.html
社会学研究科ホームページ：　https://ss.doshisha.ac.jp/index.html

（３）大学院共同研究室の利用について

臨光館４階に社会学研究科の大学院共同研究室（専攻毎の専用スペースと、共用の演習室、コピー・情報室）があります。共同研究室はマナーを守って利用してください。なお、このエリアへの入室にはカードキー（学生証）が必要です。IC カードの不良等で入館できない場合は、社会学研究科事務室へご相談ください。共同研究室は保守点検日等を除いて 24 時間利用できますが、夜間～早朝や休日に利用する際は、必ず事前に「構内残留・入構願」を事務室へ提出し、承認を得てください。臨光館４階演習室の貸出を希望する場合は、事前に社会学研究科事務室で申し込みをしてください。個人ロッカー鍵の貸与については別途掲示で案内します。

印刷費補助として正規学生は学生証をコピーカードとして利用できます。年間限度額は １ 万円（1,000 枚）分で、毎年２月下旬までの利用となり、残高の次年度繰越はできません。

※「同志社大学版新型コロナウイルス感染症拡大予防のためのガイドライン」を厳守して、使用してください。

■ 履修登録について

科目の登録は、**１年間の学習方針**を決定すると同時に、次年度以降の履修にも影響しますので、慎重に考え、計画的に行ってください。登録の手続については、本冊子のほか、**『大学院履修要項』**等を熟読のうえ、各自で確実に履修登録の手続をとってください。

なお、年度初めの登録の日時・場所は、52 頁の「履修登録日程表」に記載のとおりです。ただし、変更や追加等の連絡事項がある場合は DUET(WEB)メッセージ、本学・社会学研究科ホームページおよび掲示により周知します。必ず確認してください。

（1）登録手順の流れ

※正規学生と特別学生で手順が異なりますので、注意してください。

＜　正規学生の場合　＞

①　時間割作成　　（→ 後述の「時間割作成上の注意事項」 参照）

【注】履修登録前に必ず指導教員（未決定の場合は専攻教務主任）と登録科目の相談をしてください。

②　科目登録

登録期間に学修支援システム DUET(WEB)を利用して登録してください。登録後は DUET の画面に登録科目が正しく表示されていることを必ず確認してください。

【注】異課程科目（例：前期課程の学生が学部・専門職課程の科目を履修／後期課程の学生が学部・前期・専門職課程の科目を履修）登録は DUET（WEB）からできないため、登録期間中の事務室開室時間内に社会学研究科事務室で「一般科目登録表」に必要事項を記入し、申請してください。その際は必ず学生証を持参してください。

※学修支援システム DUET（WEB）へのログイン方法

※Web シングルサインオンの方法については、本学 IT サポートオフィスの HP を確認してください。

IT サポートオフィス HP「Web シングルサインオンサービスについて」→

③ 登録科目確認表確認

DUET で登録科目確認表（PDF ファイル）をダウンロードしてください。この登録科目確認表に記載されている科目が、自身で履修登録を行い、受講を認められた科目です。登録エラーの有無、履修登録した科目が間違いなく登録されているかを必ず確認してください。

④ 登録エラー修正

登録エラーがある場合は、エラー修正期間の事務室開室時間内に社会学研究科事務室で「登録修正届」に必要事項を記入し、エラー修正を行ってください。その際は必ず学生証を持参してください。

【注】**登録後の科目変更は認められません**ので、登録は慎重に行ってください。

⑤ 履修科目確認

DUET で登録科目一覧を確認してください。上記④の登録エラー修正を行った人は、間違いなく修正が反映されているかを必ず確認してください。

⑥ 履修中止

授業開始後１ヶ月程度授業を受講し、本人からの申請にもとづき、履修中止期間に登録科目の履修中止を認めます。履修中止期間、方法、履修中止対象科目については、社会学研究科掲示板を確認してください。履修中止後は、履修中止内容が正しく反映されているか、DUET で登録科目一覧を確認してください。

※DUET ＞ 履修手続 ＞ 登録科目一覧より確認が出来ます。

＜　特別学生の場合　＞

①　時間割作成　　（→ 後述の「時間割作成上の注意事項」 参照）

【注】履修登録前に必ず指導教員（未決定の場合は専攻教務主任）と登録科目を相談してください。

②　科目登録表記入　・申請

登録期間中の事務室開室時間内に社会学研究科事務室で「一般科目登録表」に必要事項を記入し、申請してください。その際は必ず学生証を持参してください。

◆　**科目登録表記入要領**（→次頁「記入例」参照）

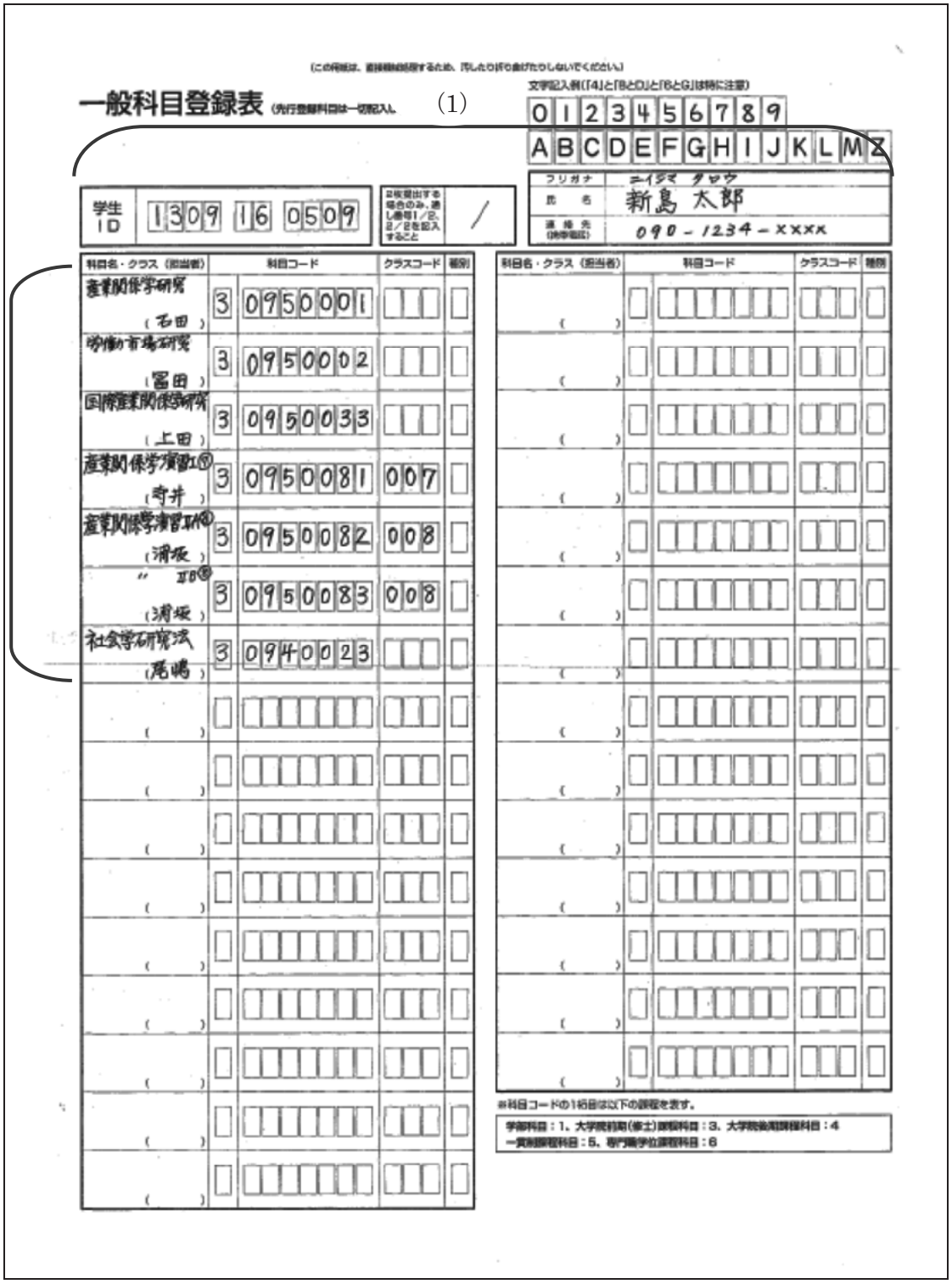
（１）　学生 ID（学生証記載の番号８桁または 10 桁）、氏名、フリガナを記入します。もし、科目登録表を２枚提出する場合は、通し番号（1/2，2/2）を記入します。
（注）学生 ID の記入を間違うと、すべての科目登録が無効になります。

（２）　本年度（１年間）に登録履修する科目名、クラス、担当者、科目コードを記入します。

科目コードについては、次のとおり記載しています。
▼社会学研究科授業科目 …『履修の手引き』・『大学院履修要項』
▼他研究科授業科目　　…『大学院履修要項』
▼学部授業科目　　…『学部履修要項』または『学部登録要領』

（３）　登録期間に連絡可能な**連絡先住所・携帯電話などの番号**を記入してください。

（科目登録表　記入例）



（この用紙は、直接機械処理するため、汚したり折り曲げたりしないでください。）

一般科目登録表（先行登録科目は一切記入し

文字記入例（「4」と「BとD」と「6とG」は特に注意）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

A B C D E F G H I J K L M Z

（1）

フリガナ	ニイジマ タロウ
氏名	新島 太郎
連絡先（携帯電話）	090－1234－XXXX

学生ID 1309 16 0509

2枚提出する場合のみ、通し番号1／2、2／2を記入すること /

（2）

科目名・クラス（担当者）		科目コード	クラスコード	種別
産業関係学研究（石田）	3	09500001		
労働市場研究（冨田）	3	09500002		
国際産業関係学研究（上田）	3	09500033		
産業関係学演習Ⅰ⑦（寺井）	3	09500081	007	
産業関係学演習Ⅱ⑧（浦坂）	3	09500082	008	
〃 Ⅱ⑨（浦坂）	3	09500083	008	
社会学研究法（尾鳴）	3	09400023		

科目名・クラス（担当者）	科目コード	クラスコード	種別

※科目コードの1桁目は以下の課程を表す。

学部科目：1、大学院前期（修士）課程科目：3、大学院後期課程科目：4
一貫制課程科目：5、専門職学位課程科目：6

③ 登録科目確認表確認

DUET で登録科目確認表（PDF ファイル）をダウンロードしてください。この登録科目確認表に記載されている科目が、自身で履修登録を行い、受講を認められた科目です。登録エラーの有無、履修登録した科目が間違いなく登録されているかを必ず確認してください。

※学修支援システム DUET（WEB）へのログイン方法

※Web シングルサインオンの方法については、本学 IT サポートオフィスの HP を確認してください。

IT サポートオフィス HP「Web シングルサインオンサービスについて」→

④ 登録エラー修正

登録エラーがある場合は、エラー修正期間の事務室開室時間内に社会学研究科事務室で「登録修正届」に必要事項を記入し、エラー修正を行ってください。その際は必ず学生証を持参してください。

【注】**登録後の科目変更は認められません**ので、登録は慎重に行ってください。

⑤ 履修科目確認

DUET で登録科目一覧を確認してください。上記④の登録エラー修正を行った人は、間違いなく修正が反映されているかを必ず確認してください。

⑥ 履修中止

授業開始後１ヶ月程度授業を受講し、本人からの申請にもとづき、履修中止期間に登録科目の履修中止を認めます。履修中止期間、方法、履修中止対象科目については、社会学研究科掲示板を確認してください。履修中止後は、履修中止内容が正しく反映されているか、DUET で登録科目一覧を確認してください。

※DUET ＞ 履修手続 ＞ 登録科目一覧より確認が出来ます。

（2）時間割作成上の注意事項

１．二重登録の禁止

時間割上、同一講時の科目を重複して登録することは原則できません。また、複数クラスのある科目（クラスコードのみ異なる科目）については、いずれか１クラスしか登録できません。

開講科目一覧表の週時間欄に「4」と記載されている科目については、週あたり２回の授業があります。時間割の重複に注意してください。

２．他専攻・他研究科授業科目の登録について

専攻によっては、他専攻・他研究科科目の履修が認められています。詳細は、『大学院履修要項』記載の各専攻「履修方法」を確認してください。

３．学部授業科目の登録について

学部科目には、履修条件が定められていたり、科目登録日程が分散していたりする場合（先行・一般登録等）があります。詳細は、各自で当該科目の『履修要項』または掲示等を確認してください。

新入生で、既に登録手続期間が終了した学部授業科目（先行登録等）を希望する場合は、至急、社会学部・社会学研究科事務室まで相談に来てください(定員に達していない等条件があれば、登録できる場合があります)。

【参考】よく見かける登録エラー

時間割重複　　……週２回の授業がある科目についての時間割上の見落としなど。

受講できない　……他専攻・他研究科科目など、履修が認められていない科目やコードで登録したため。

〇〇年度履修済　……一度合格した科目（単位認定を含む）は再度登録履修できない。【大学院一般内規】

当該科目ｺｰﾄﾞなし…間違った科目コードで登録したため。

その他、条件科目未履修、　履修年次誤りなど

★なお、コードを間違って記入しても、そのコードが存在する場合は必ずしもエラー表示が出ません（別の科目として登録されてしまいます)。エラーメッセージがない場合であっても、「登録科目確認表」に表示された内容は、すべて確認するようにしてください。

■ 学業成績等

（1）GPA（Grade Point Average）制度

各科目の成績評価を、**大学院**においては **7 段階**（A⁺，A，B⁺，B，C⁺，C，F）、学部においては 5 段階（A，B，C，D，F）で評価し、各成績評価段階に 4.5～0.0（学部の場合は 4.0～0.0）の評点（Grade Point）を付与して、1 単位あたりの評点平均値（Grade Point Average）を算出します。

○判定基準

＜大学院＞

評価	評点	判定内容
A⁺	4.5	特に優れた成績を示した
A	4.0	A⁺に準じた成績を示した
B⁺	3.5	優れた成績を示した
B	3.0	B⁺に準じた成績を示した
C⁺	2.5	妥当と認められる成績を示した
C	2.0	C⁺に準じた成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

上記段階評価以外の評価は、（ＰＡＳ(合格)・ＦＡＬ(不合格)・ＴＦＣ(認定)）とする。

＜算出方法＞

（A⁺ ×4.5＋A×4.0＋B⁺ ×3.5＋B×3.0＋C⁺×2.5＋C×2.0）/（A⁺ ＋A＋B⁺ ＋B＋C⁺ ＋C＋F）

（A⁺～Ｆはそれぞれの合計単位数）

＜学部＞
（参考まで）

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

○不合格科目と再履修

ＦあるいはＦＡＬ評価であった科目は不合格科目とし、単位の修得とみなしません。再履修は、不合格科目に限り認めます。

○ＧＰＡ算出方法

A⁺（学部の場合Ａ）～Ｆの段階で評価された全科目の評価を評点に換算して、1 単位あたりの評点平均値を学期毎および累積で算出します。Ｆ評価であった科目を再履修してＣ（学部の場合Ｄ）以上の評価を得た場合、最終のＦ評価は新たな評価に書き換えられます。なお、単位が設定されていない科目、A⁺～Ｆ以外の評価がついている科目は、ＧＰＡに算入されません。

（2）科目登録と履修中止

原則として、春および秋学期含めた一年間の履修科目の登録は、春学期授業開始前に終えてください。また、授業開始後 1 ヶ月程度授業を受講し、本人からの申請にもとづき、履修中止期間に登録科目の履修中止を認めます。　※「集中講義科目」の履修中止については別途お知らせします。

（3）試験

1．期末試験の実施要領は、掲示板および大学ＨＰで確認してください。

２．未登録科目は受験できません。
３．論文・レポート試験について、提出先が事務室の場合は以下の事項を遵守してください。
ａ．論文・レポートには所定の表紙（大学ＨＰよりダウンロード可）を付けること。
ｂ．表紙およびレポート受領書はペン書きのこと。
ｃ．学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。
ｄ．提出締切日・時間に遅れた論文・レポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先（事務室）に連絡を取り指示を受けること。
ｅ．一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
ｆ．レポート受領書は、成績評価が出るまで大切に保管すること。

（４）授業クラス毎の評点の平均値や分布の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラス毎の評点の平均値や分布を、大学ＨＰ上でシラバス等とリンクして公表し、成績評価基準の透明化をはかります。

（５）クレーム・コミッティ制度の実施

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属学部・研究科（窓口開室時間内に限る）に相談してください。また、成績評価に関する質問や異議申し立てについては、定められた成績通知書交付日から１週間以内に社会学研究科事務室に申請してください。

学生からクレームが提出されると、クレーム・コミッティが授業担当者から事実関係を調査し、原因や対策などについて学生に回答します。いかなる場合であっても相談者の学生ＩＤや氏名が授業担当者に明かされることはなく、相談によって不利益を被ることはありません。

（６）追試験制度について

１．対象者

学部学生（正規学生、科目等履修生、外国人留学生特別学生）の全年次生を対象とします。ただし、大学院生が免許・資格取得等のため学部科目を履修する場合、あるいは大学院科目が学部科目と合併で開設され、当該科目を履修する場合、大学院生も追試験の受験対象者となります。

２．対象試験範囲

病気またはやむを得ない事由により、期末試験を受験できなかった上記の授業科目に対して実施するものです。ただし、期末試験以外に臨時に実施するテストについては、学部教授会の判断により、追試験の対象となることがあります。

追試験受験希望者は、所定の「追試験願」を当該科目試験終了後３日以内に、追試願を社会学研究科事務室に提出してください。

※追試験について

https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.html

３．追試験の得点

追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。

■ そ の 他

（１）関西四大学院学生の交流について ……【同志社大学大学院学則 第６条の２ 参照】

同志社大学、立命館大学、関西大学、関西学院大学の四大学では、「関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定書」にもとづき、大学院の学生を相互に派遣し、他大学大学院の授業科目を履修し単位を修得することを認めています。
※他大学大学院の資料は社会学研究科事務室にて閲覧できます。

〇提出書類
①関西四大学大学院単位互換履修生願書（所定用紙は事務室にて配布します）
②写真２枚（タテ 3cm × ヨコ 2.4cm、１枚は願書に貼付する）
※書類提出時には所定の登録手続を行ってください。
〇書類の提出期限 *※申込みに先がけて指導教員から科目担当者に予め了解を求めることが必要です。*
春学期： ４月８日（月） ／ 秋学期： ９月 26 日（木）予定
〇提出先 社会学研究科事務室

（２）所定の単位修得者の取扱い ……【大学院一般内規 学費 の項参照】

１．博士課程の前期課程
２年以上在学し、所定の単位を修得した人は、次の学期から授業料および教育充実費を半額とします。**ただし、**「論文」以外の**授業科目（学部または大学院）を履修する場合は、この適用を受けられません。**注意してください。（社会学専攻のみ社会学特別演習Ⅱの取り扱いが異なりますので、社会学専攻生で２年以上在学予定の人は事前に社会学研究科事務室に確認してください）

２．博士課程の後期課程
３年以上在学した人は、次の学期から授業料および教育充実費を半額とし、実験実習料は納入を要しません。**ただし、**各専攻の研究指導科目以外の**授業科目（学部または大学院）を履修する場合は、この適用を受けられません。**注意してください。

３．上記減免の対象となる人には、請求金額を変更した振込用紙を送ります。
なお、講義受講後、履修中止によって授業科目の履修を取り止めた場合は、減免が適用されません（遡及しない）ので、注意してください。

（３）教員研究室、研究室事務室について

１．社会学研究科の専任教員の研究室は、渓水館（2～4 階）にあります。
２．研究室事務室は臨光館１階にあり、図書の貸出し、学会報の配布等を行っています。

（４）免許・資格

「教職課程」、「博物館学芸員課程」、「図書館司書課程」、「学校図書館司書教諭課程」の免許資格を登録する学生は、**免許資格係（免許資格課程センター事務室）**にて課程登録等の手続を完了し、DUET にて各自で履修登録を行ってください（詳細については、今出川キャンパス良心館掲

示板参照)。

（5）奨学金

奨学金制度については、**学生生活課今出川奨学・生活係**（Tel 075-251-3280）へお問い合わせください。外国人留学生の場合は、**留学生課**（Tel 075-251-3257）へお問い合わせください。

（6）各種届の窓口・証明書の発行について

証明書の申請・受け取りは本人に限ります。証明書自動発行機（尋真館および学内各所に設置）が利用できる時間は、原則としてその期間の窓口事務取扱時間となりますが、**設置場所によって利用時間が異なります**。詳細はそれぞれの**発行機付近の掲示を確認**してください。また、窓口発行の場合は、証明書の種類によって交付までに時間を要しますので注意してください。

2024.4.現在

事 項	場 所	摘 要
在学証明書 成績証明書 修士学位取得見込証明書	証明書自動発行機（学内各所） または社会学研究科事務室	英文証明書（手数料１通 300 円）も同様です。 左記以外で特殊な証明が必要な場合は、事務室窓口で個別に相談してください。
研究指導証明書（後期課程）	社会学研究科事務室	
通学証明書	社会学研究科事務室	
学生割引証（学割）	証明書自動発行機（学内各所）	原則として年間１人 10 枚まで。10 枚を超えて必要な場合は、社会学研究科事務室に申請してください。
健康診断証明書 （定期健診受診者にかぎる）	証明書自動発行機（学内各所）	修了年次生のみ発行可。
休学・退学・復学・再入学・改姓（名）届	社会学研究科事務室	
住所変更届	社会学研究科事務室	
パソコンおよびネットワーク利用に関すること	ＩＴサポートオフィス （良心館地下１階及び臨光館１階）	ただし、大学院共同研究室内（臨光館４階）における利用について何かあれば、まず社会学研究科事務室へご相談ください。
図書に関すること	今出川図書館／ﾗｰﾈｯﾄﾞ記念図書館、 社会学部・社会学研究室事務室	
免許・資格に関すること	免許資格課程センター事務室 （良心館１階）	
海外留学に関すること	国際課　（扶桑館１階）	
就職・進路に関すること	キャリアセンター　（寒梅館２階）	
健康管理に関すること	保健センター　（寒梅館２階）	
拾得物・遺失物に関すること	門衛所（警備員室）（各キャンパス） 社会学研究科事務室	学生証等氏名のわかる貴重品は事務室で取り扱いますが、その他の忘れ物は当該キャンパスの門衛所で一定期間保管されます。